

令和5年度

中学校長会

紀要



宮城県中学校長会

◇ 活動方針	1
◇ 宣言・決議	2
◇ 巻頭言「アフターコロナの県中学校長会」	3
◇ 令和5年度役員名簿	4
◇ 令和5年度会務分掌	5
◇ 令和5年度事業実施状況	6～8
◇ 各部の活動報告	9～13
○総務部	部長 橋元 伸二 9
○研究部	部長 千葉 純子 10
○行財政部	部長 小松 昭 11
○情報部	部長 佐々木 晃 12
○指導部	部長 渥美 寿彦 13
◇ 宮城県中学校体育連盟の動き	会長 洞口 乃 14, 15
◇ 各地区校長会の動き	16～25
○大河原地区	会長 齋藤 祐一 16, 17
○仙台地区	会長 玉野井ゆかり 18, 19
○北部地区	会長 名取 秀樹 20, 21
○本吉地区	会長 齋藤 博厚 22, 23
○東部地区	会長 杉山 孝一 24, 25
◇ 各地区研究報告	26～45
○大河原地区	研究部長 中 秀司 26～29
○仙台地区	研究部長 高橋 睦子 30～33
○北部地区	研究部長 菅原 恵美 34～37
○本吉地区	研究部長 宮崎 明雄 38～41
○東部地区	研究部 阿部 一彦 42～45
◇ 編集後記	46

【第74回 宮城県中学校長会総会・研修会（6月1日）】



開会式 佐藤 亨 会長挨拶



祝辞 教育長 佐藤 靖彦 氏



総会風景



バッチ受領の様子

【第73回 東北地区中学校長会研究協議会福島大会（6月30日）】



開会式



福地 裕之 会長の挨拶



分科会の様子



記念講演の様子

【第41回 宮城県中学校長会研究協議会北部大会（10月13日）】



開会行事の様子



研究発表（本吉地区）の様子



研究発表（大河原地区）の様子



記念講演の様子

【第74回 全日本中学校長会研究協議会大分大会（10月26, 27日）】



開会式の様子①



開会式の様子②



分科会の様子



出席者及び会場の様子

令和5年度 宮城県中学校長会活動方針

今日、我が国では、持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権などの動きが進行している。

教育界では、教育基本法及び教育関連法規の改正や教育機会確保法の制定をはじめ、教育振興基本計画策定など一連の教育改革が行われ、新たな制度の構築や学習指導要領の改訂により、その趣旨や内容に基づく教育課程の編成・実施に加えて「GIGA スクール構想」や「部活動の在り方」、更には「学校における働き方改革」など、「令和の日本型学校教育」の実現が求められている。

この時にあたり、私たち中学校長は、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育むとともに、Society5.0時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮し、「学校における働き方改革」の実現を含め、学校からの教育改革を推進しなくてはならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災からの復興・再生や多発する災害への対応、また、ポストコロナにおける教育活動の推進が求められる中、教育の充実・発展を活動方針の第一の柱とし、全日中新教育ビジョン『学校からの教育改革』を踏まえ、次の方針に基づき、本県中学校教育の一層の充実・発展を期する。

1 宮城県中学校長会の機能を充実し、活動の活性化に努める。

- (1) 仙台市中学校長会、小学校、特別支援教育諸学校、高等学校の校長会と連携した活動の推進
- (2) 教育研究及び広報活動並びに諸事業の充実
- (3) 関係機関との連携の促進及び教育課題の解決と提言
- (4) 教育改革に関する迅速な対応と情報の発信

2 創意ある教育課程を編成し、確かな学力の向上と個性を生かす教育の推進に努める。

- (1) 学習指導要領の趣旨の実現を図る教育課程の編成、実施、評価、改善
- (2) 基礎・基本の確実な習得と、それらを活用する能力及び学びに向かう力を育てる指導・評価の工夫改善
- (3) 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むための「カリキュラム・マネジメント」の確立

3 当面する教育課題の解決に努める。

- (1) 全日中新教育ビジョン『10の提言』の推進と検証
- (2) 東日本大震災で被災した学校への支援、ポストコロナにおける教育活動の推進
- (3) 多発する自然災害に対応するために、実践につながる防災・安全教育の推進
- (4) 心の教育を中心に据えた生徒指導の推進
- (5) いじめを生まない学校体制の確立
- (6) 多様な学びの確保など不登校支援の充実
- (7) 志教育の視点に立った教育活動の展開
- (8) 特別支援教育への適切な対応

4 家庭や地域社会に信頼される学校づくりに努める。

- (1) 地域の一員として信頼される教職員の育成
- (2) 学校改善につながる学校評価システムの工夫（自己評価と学校関係者評価の活用）
- (3) 諸機関との連携を密にした危機管理の徹底
- (4) 教職員の適正な評価による資質向上と教育実践に結びついた現職教育の充実

5 教育諸条件の整備・充実と職責に見合う待遇改善の実現に努める。

- (1) 義務教育費国庫負担制度や人材確保法の堅持
- (2) 教育改革推進のための人的配置と学校運営予算の充実
 - ア 教職員の定数改善と学習指導要領の趣旨・内容に即応した人的配置
 - イ 施設・設備の充実と学校裁量予算の増額
- (3) 全ての子どもたちに ICT を活用した学習を保障するための一層のサポート体制や研修、実践の充実
- (4) 教職員の諸手当や旅費等の充実及び待遇改善
- (5) 校長・教頭の特別調整額の新設及び退職時における待遇の改善
- (6) 「学校における働き方改革」を踏まえた部活動の地域移行の在り方の検討
- (7) 適切な人事評価の実施

宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる持続可能な社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化する中、新しい時代の中学校教育の課題に対応するとともに、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災による被災からの再生とポストコロナにおける学びの充実、教育改革の推進を第一義に、これまでの成果の上にたって、当面する教育課題の解決を図り、特色ある学校づくりに努め、県民の付託にこたえる決意である。

ここに、第74回総会に当たり、下記事項を決議し、その実現に期する。

決 議

- 一 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一 学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一 現在の教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える開かれた学校づくりに努める。
- 一 教育活動の活性化を目指し、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し、教育水準の維持向上を期する。
- 一 引き続き「学校における働き方改革」を推進し、教職員の勤務実態を踏まえ、有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期し、Society5.0時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮する。
- 一 東日本大震災をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と防災教育・安全教育の充実を努める。

令和5年6月1日

宮城県中学校長会

< 巻 頭 言 >



アフターコロナの県中学校長会

宮城県中学校長会 会長 佐藤 亨

この3年間、教育活動に深刻な影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症の扱いが、令和5年5月8日から感染症法上5類に移行され、様々な制限の緩和が進みました。

このような状況を踏まえ、本会は6月の総会で、アフターコロナにおける学びの充実、教育改革の推進を第一義に、これまでの成果の上に立って、当面する教育課題の解決を図り、特色のある学校づくりに努め、県民の負託にこたえる決意を宣言し、その実現に向けた取組を推進してまいりました。

これまで会員の皆様の御理解と御協力により、宮城県中学校長会として、アフターコロナの活動を積極的に進めることができましたことに心より感謝申し上げます。

今年度、これまで行われた副会長会、理事会では、それぞれの地区で、研修会や理事会などが予定どおり開催され、学校長同士の密な連携と活発な情報交換が行われていると報告を受けております。

各部の活動に目を向けましても、理事会における職能研修の計画調整・仙台市・小学校・高等学校・市立高等学校との連携（総務部）、学校運営に関する調査及び人事に関する調査の実施と集約（行財政部）、部活動に関する調査の実施と集約（指導部）、各地区の実践研究の成果の交換（研究部）、会報149号の発行、ホームページの更新（情報部）など、様々な教育課題に対応したり、校長間の連携を強化したりする活動が展開されております。

また、10月13日に開催されました、「第74回宮城県中学校長会研究協議会北部大会」は、4年ぶりに会員が集い、半日の日程の中に、研究協議、記念講演を盛り込んだ新たな運営様式で行われました。ポストコロナの現状や、宮城県の地理的

な特性まで考慮し、大会の開催に向けて多大な御尽力いただきました北部地区の皆様方には、改めて厚く御礼申し上げます。

10月25日に大分県別府市で行われた全日中理事会で、「部活動の地域移行」の推進状況並びに今後の課題について情報交換を行ってまいりました。各県・自治体により、進捗状況は異なっていますが、予算・指導者・練習場等の確保は、共通の悩みだと感じました。そして、学校が考えておかなければならないそれ以上に大きな課題は、部活動を手放した後、部活動が担ってきた機能をどう補完していくかです。時間はかかっても、部活動地域移行の流れは確実に進んでいくことと思います。「働き方改革」と併せ、その趣旨を地域・保護者に正しく理解していただくとともに、「生徒と向き合う時間」をどうマネジメントしていくのが問われることへの備えも必要だと強く感じました。

その外にも、今年度は記録的な猛暑による熱中症や、不審者の車両での校地内侵入による事故など、生徒の安全を守るために迅速な対応が求められる案件も発生し、改めて校長の危機管理能力とリーダーシップが試されました。これらの新しい課題への対応には、教育委員会との連携、学校長同士の密な情報交換が欠かせません。県中学校長会は、各校・各校長先生への支援と情報の共有、相談体制を充実させるとともに、各学校と教育関係団体をつなぐ役割を果たしてまいりますので、今後も会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、この紀要には各部の活動報告、そして研究成果等を含めた宮城県中学校長会の一年の歩みがまとめられています。編集に御尽力いただきました情報部員の皆様への感謝と、宮城県中学校長会の今後益々の発展と会員各位の御健勝を祈念し、発刊の挨拶といたします。

令和5年度 役員名簿

役員・地区		氏名	勤務校	役員・地区	氏名	勤務校		
会長		佐藤 亨	大河原中	理事	小野 ゆかり	南郷中		
副会長	大河原	齋藤 祐一	角田中		北部	小野寺 英一	鳴峰中	
	仙台	玉野井 ゆかり	増田中			多田 陽	金成小中	
副会長	北部	名取 秀樹	古川南中		本吉	尾形 浩明	条南中	
	本吉	斎藤 博厚	気仙沼中		東部	及川 幸男	佐沼中	
	東部	杉山 孝一	住吉中			山内 芳明	石巻中	
監事	本吉	熊谷 岳哉	歌津中			黒沼 俊郎	矢本二中	
監事	東部	佐藤 智哉	米山中		宮中体連副会長	長倉 清敬	豊里小・中	
理事	総務部	橋元 伸二	亘理中		宮連中教研会会長	三浦 道子	船迫中	
		研究	千葉 純子		登米中	参与	木村 真也	多賀城二中
	行財政部長	小松 昭	松岩中	事務局 〒985-0851 □多賀城市南宮字八幡170 多賀城市立第二中学校内 ・TEL 022(309)1351 ・FAX 022(309)1352 ・E-mail miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp ◇事務局員 佐々木 奈美子 開設日：週3回（月曜日・水曜日・金曜日） 9時30分～15時30分 （長期休業中：9時30分～12時30分）				
		情報	佐々木 晃					古川中
		指導	渥美 寿彦					白石中
	大河原	小原 彰	村田一中					
		加藤 敏充	川崎中					
	仙台	中里 和裕	多賀城中					
		宮本 利浩	岩沼中					
		高野 薫	塩竈一中					
熊谷 正広		利府中						
堀内 恵理子		荒浜中						

令和5年度 会 務 分 掌

◎印 部 長

○印 副部長

部・地区		氏 名	勤務校	部・地区		氏 名	勤務校
総務部	大河原	加藤敏充	川崎中	情報部	大河原	松崎恵子	村田二中
	仙台	◎橋元伸二	亘理中		仙台	白鳥修	山元中
	北部	多田陽	金成小中		北部	◎佐々木晃	古川中
	本吉	尾形浩明	条南中		本吉	藤山篤	津谷中
	東部	○黒沼俊郎	矢本二中		東部	○阿部勇志	渡波中
研究部	大河原	○中秀司	船岡中	指導部	大河原	◎渥美寿彦	白石中
	仙台	高橋睦子	名取一中		仙台	阿部篤史	東向陽台中
	北部	菅原恵美	色麻学園		北部	一條一也	不動堂中
		野家智昭	涌谷中			狩野浩二	栗駒中
	本吉	宮崎明雄	新月中		本吉	高橋有	志津川中
	東部	◎千葉純子	登米中		東部	佐藤修二	稲井中
阿部一彦		北上中	○菅原栄夫	南方中			
行財政部	大河原	目々澤辰悟	遠刈田中	<p>来年度は、80年誌作成準備委員会の方々特別委員会の委員としてここに入ります。</p> <p>また、次回東北大会が宮城で開催される前年に特別委員会として実行委員長・副実行委員長当該年に事務局として幹事長、副幹事長、会計幹事が置かれます。</p>			
	仙台	佐藤広昭	富谷中				
	北部	阿部剛	栗原南中				
	本吉	◎小松昭	松岩中				
	東部	○高橋禎毅	河南西中				

令和5年度

事業実施状況

I 行事

宮城県中学校長会				関 連		
月	日	曜	行事名	内 容	東北地区中学校長会	全日本中学校長会
4	24	月	地区会長会	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度正副会長等の推薦 理事会提案事項の審議 事務局体制について 		
			理事会	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度事業報告・会計決算報告 令和4年度会計監査報告 令和5年度役員選出 令和5年度活動方針・事業計画(案) 令和5年度会計予算(案)・集金計画 令和5年度申し合わせ事項(案) 令和5年度総会について 令和5年度県・市申し合わせ事項(案) 全日中大分大会, 東北地区中福島大会について 		
			総合部会	<ul style="list-style-type: none"> 第1回各部会 正副部長選出・各部活動目標・活動内容等の計画確認 		
			地区会長会兼部長会	<ul style="list-style-type: none"> 各部計画の確認及び調整 その他 		
			研修会	<ul style="list-style-type: none"> ☆宮城県教育庁行政説明 ・教職員課 小中学校人事専門監 ・義務教育課 心のサポート専門監 		
5	8	月	地区会長会兼部長会	<ul style="list-style-type: none"> 理事会提案事項の審議 		23日(火) ・第1回基金管理運営委員会 ・第1回常任理事会 会計監査会 24日(水) ・第1回理事会 25日(木), 26日(金) ・第74回総会
			理事会	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度役員・会務分掌確認 会則・運営規程・申し合わせ事項の改定 第74回宮城県中学校長会総会について 各地区の教育情報交換 		
	12	金	仙台市との連絡協議会 担当: 宮城県	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年第3回連絡協議会の確認事項等について 今年度の予定及び申し合わせ事項確認 県・市中学校長会連携・協力に関する覚書調印 		
6	1	木	第74回 宮城県中学校長会 理事会・総会・研修会 (通常開催)	<総会> ・開会行事 ・議事 ①報告 ②協議 ・宣言決議 ・閉会	<研修会> ☆宮城県教育庁各課行政説明 ・教職員課 ・義務教育課 ・高校教育課 ・特別支援教育課 ・保健体育安全課 ・生涯学習課	2日(金) ・第1回副会長会 29日(木) ・第1回理事会 30日(金) ・第73回東北地区中学校長会研究協議会福島大会 発表「道徳教育」 本吉地区 亀谷 寿之 鹿折 中 校長
				<ul style="list-style-type: none"> 総会の反省 東北地区中学校長会研究協議会福島大会の反省 8月理事会・小中合同理事会・研修会について 		
7	7	金	地区会長会兼部長会	<ul style="list-style-type: none"> 総会の反省 東北地区中学校長会研究協議会福島大会の反省 8月理事会・小中合同理事会・研修会について 		
8	1	火	理事会	<ul style="list-style-type: none"> 全日中・東北中関係報告 第1回宮城県・仙台市連絡協議会報告 総会の反省 大分大会, 助成金, 私立高連絡会について 		
			小中合同理事会研修会 (担当: 仙台地区中学校長会)	<ul style="list-style-type: none"> ☆宮城県教育庁行政説明 ・教職員課・義務教育課 発表「学校経営」本吉地区 尾形 浩明 条南中 校長 		
9	15	金	仙台市との連絡協議会 担当: 宮城県	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度第1回連絡協議会の内容確認 令和5・6年度の東北・全国研究協議会について 		
	22	金	中間監査会	<ul style="list-style-type: none"> 中間監査 		

宮城県中学校長会			関 連			
月	日	曜	行 事 名	内 容	東北地区中学校長会	全日本中学校長会
10	3	火	地区会長会兼部長会	・理事会提案事項の審議		25日(水) 第2回常任理事会 第2回理事会 26日(木),27日(金) 全日中大分大会 (別府市)
			理事会・研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回宮城県仙台市連絡協議会報告 ・小中学校長会合同研修会の反省 ・県中学校長会研究協議会北部大会について ・令和5年度会計中間報告について ・古岡奨学会について ・令和6年度事業計画(案)について ・各部からの活動報告 ・全日中R5大分・R6岩手大会について ・各種助成事業について ・令和6年度統廃合の確認 ・各地区の教育情報交換 ☆研修 「教育課程」東部地区 山内 芳明 石巻中 校長		
	13	金	第41回宮城県中学校長会研究協議会北部大会	発表 「道徳教育」本吉地区 亀谷 寿之 鹿折中 校長 宮崎 明雄 新月中 校長 「学校経営」大河原地区 中 秀司 船岡中 校長		
11						17日(金)(Web) 中間会計監査会 副会長会
1	12	金	地区会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度役員・会務分掌確認 ・会則・運営規程・申し合わせ事項の改定 ・第75回宮城県中学校長会総会について ・各地区の教育情報交換 		18日(木)(Web) 第2回基金管理運営委員会 第3回常任理事会 19日(金)(Web) 第3回理事会
	18	木	仙台市との連絡協議会 担当：宮城県	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度第2回連絡協議会の確認事項等について ・令6年度宮城県・仙台市の申し合わせ事項の確認 ・令和6年度事業計画について ・全日中岩手大会について 		
2	8	木	地区会長会	・理事会提案事項の審議	2日(金)(福島市) 令和5年度会計監査会 第2回副会長会 第2回理事会 事務局会(福島市)	16日(金) 事務局長・事務長 会
			理事会・研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県教育委員会連絡 ・全日中理事会・東北地区理事会報告 ・第3回県・市連絡協議会報告 ・令和5年度事業実施状況について ・令和5年度各部活動報告 ・令和6年度事業計画案について ・令和6年度総会について ・古岡奨学会について ・宮城県中体連について ・宮連小中教研について ・各地区情報交換 ☆研修 「生徒指導」大河原地区 小原 彰 村田一中 校長		
3	18	月	監査会	令和5年度会計監査		

II 研究・研修

1 研究発表

【東北地区中学校長会研究協議会福島大会】

○6月30日(金)

道徳教育：本吉地区「自らの生き方を主体的に探究する力を高める道徳教育の推進」
発表者 鹿折中 亀谷 寿之 校長

【宮城県中学校長会研究協議会北部大会】

○10月13日(金)

道徳教育：本吉地区「自らの生き方を主体的に探究する力を高める道徳教育の推進」
発表者 鹿折中 亀谷 寿之 校長
新月中 宮崎 明雄 校長
学校経営：大河原地区「人材育成・資質向上、働き方改革の推進」発表者 船岡中 中 秀司 校長

【宮城県中学校長会理事会】(小中合同を含む)

○8月1日(火)

学校経営：本吉地区「統合時における学校経営」 発表者 条南中 尾形 浩明 校長

○10月3日(火)

教育課程：東部地区「学校経営の実践事例」 発表者 石巻中 山内 芳明 校長

○2月8日(木)

生徒指導：大河原地区「生徒指導上の課題に向けて」 発表者 村田一中 小原 彰 校長

2 講演・講話・研修(行政説明含む)

(1) 第74回全日本中学校長会総会5月25日(木)・26日(金)

「当面する初等中等教育上の諸課題」 文部科学省 初等中等教育局 主任視学官 宮崎 活志 氏

(2) 第74回宮城県中学校長会総会・研修会6月1日(木)

宮城県教育委員会6課説明

(3) 第73回東北地区中学校長会研究協議会福島大会6月30日(金)(HYBRID方式開催)

「不透明かつ分断の時代における校長のリーダーシップを考える」

PwCコンサルティング合同会社 高橋 洋平 氏

(4) 第41回宮城県中学校長会研究協議会北部大会

「星にはせる夢 ～星・ひと・笑顔～」

大崎地域広域行政事務組合教育次長兼生涯学習センター長 遊佐 徹 氏

(5) 第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会10月26日(木)、27日(金)

「当面する初等中等教育上の諸課題」文部科学省 初等中等教育局 大臣官房審議官 安彦 広斉 氏

3 研究調査及び研究成果、会報の発行

(1) 行財政部

- ① 人事等に関する調査と提言
- ② 東日本大震災の復興に向けた調査と提言
- ③ 教育課程に関する調査と提言
- ④ いじめ対策についての取組と課題に関する調査と提言
- ⑤ 県中学校長会財務内容の検討と予算・決算

(2) 情報部

- ① 会報149号発行(12ページ)・発行日 令和5年8月1日(火)
・第74回宮城県中学校長会総会・新会員抱負(12名)等
- ② 「紀要」発行・発行日 令和6年3月1日(金)
・活動方針、各部の活動報告、地区校長会の動き
- ③ 宮城県中学校長会ホームページ更新・更新日 令和5年6月、8月、9月、12月、令和6年3月

(3) 研究部

- ① 各地区の研究主題や取組状況等について情報交換
- ② 各地区の取組状況の情報交換
- ③ 宮城県・東北地区・全日本各中学校長会研究協議会についての情報交換と発表ローテーションの確認
- ④ 令和5年度東北地区中学校長会研究協議会発表地区(本吉地区)より情報提供

(4) 指導部

- ① 各地区指導部の活動及び学校運営課題についての情報交換
- ② 各中学校部活動における現状や、休日の運動部活動における段階的な地域移行に係る各市町村および学校の進捗状況や課題を把握し、今後の取組に生かしていくため、アンケート調査を県下全中学校対象に実施し、集計・まとめを行い全会員へ配付
- ③ 部会開催時の話題提供と研修

(5) 総務部

- ① 総会に向けた宣言・決議、活動方針等についての原案作成
- ② 全日中調査への対応(各調査報告等)
- ③ 宮城県小・中学校教育充実発展についての小学校側との連絡調整・実施(宮城県教育委員会との懇談会は中止)
- ④ 宮城県教育委員会への要望書検討(廃止)
- ⑤ 宮城県・仙台市中学校長会連絡協議会申し合わせ事項の調整及び覚書確認と会議の連絡調整(R5は宮城県担当)
- ⑥ 関係団体からの各種助成金・補助金・奨学金等の周知及び実務調整
- ⑦ 令和5年度東北地区中学校長会研究協議会福島大会、全日本中学校長会大分大会参加に向けた連絡調整
- ⑧ 理事会研修会における行政説明の連絡調整と当日の運営

(6) 特別委員会(R5は設置なし。R6は80周年準備委員会設置予定)

III 渉外活動

- 1 宣言・決議 6月1日(木) 第74回 総会
- 2 市町村教委への要望 地区毎
- 3 私立高等学校長との連絡会 10月3日(火) 4年ぶりに開催 R5は私立高校長会担当

IV 会員慶弔

- 宮城県教育功績者表彰・宮本 利浩 校長(岩沼中) ・斎藤 博厚 校長(気仙沼中)
・及川 幸男 校長(佐沼中) ・小野寺 徹 校長(丸森中)

各部の活動報告

総務部

部長 橋元 伸二
(亶理町立亶理中学校)



1 活動目標

- 各地区中学校長会との連絡提携と融和協力態勢を一層密にする。
- 仙台市中学校長会との連携協力を強化する。

2 活動内容

- (1) 活動目標及び活動計画の原案等の諸準備、総会開催の準備、各種研究協議会参加の調整
- (2) 理事会における職能研修計画の作成と連絡調整
- (3) 当面する課題に関する他の部に属さない事項への対応
- (4) 年度末における諸課題の整理集約、運営上の反省に基づく課題把握と次年度の準備
- (5) 小学校長会、公立・私立高等学校、仙台市中学校長会との連携強化についての調整

3 活動の概要

- (1) 総務全般
 - ① 仙台市中学校長会との連絡協議会・諸課題の把握（本年度：宮城県担当）
 - 申し合わせ事項の協議と確認
 - 全日中大会参加人数の調整
 - 関係諸団体の把握
 - 令和5年度全日中大分大会について
 - 令和5年度東北大会（福島）について
 - ② 各部との連絡調整
 - ③ 県教委との懇談会（中止）
 - ④ 小中合同理事会（本年度：中学校担当）
 - ⑤ 県中体連、各支援団体への対応
- (2) 総会の運営と研修会運営の連絡調整
 - ① 6月1日（木）第74回総会・研修会
 - 会長あいさつ
 - 議事（報告：事業、決算、役員）
 - 議事（協議：活動計画、事業計画、予算決算）
 - 宣言・決議
- (3) 研究協議会開催、参加に係る連絡調整
 - ① 第73回東北地区中学校長会研究協議会福島大会〔6月30日（金）HYBRID方式〕
 - 第Ⅱ分科会発表 本吉地区研究部「よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実」
～自らの生き方を主体的に探究する力を高める道德教育の推進～
発表者 亀谷 寿之 校長（鹿折中）

- ② 第41回宮城県中学校長会研究協議会北部大会〔10月13日（金）〕
道德教育：本吉地区（福島大会に同じ）
発表者 亀谷 寿之 校長（鹿折中）
宮崎 明雄 校長（新月中）
学校経営：大河原地区
「人材育成・資質向上、働き方改革の推進」
中 秀司 校長（船岡中）
- ③ 第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会〔10月26日（木）27日（金）〕
宮城県・仙台市中学校長会29名参加
- (4) 地区会長会・理事会の運営
 - ① 地区会長会 6回の開催
 - ② 理事会 4回の開催
- (5) 理事会での研修会開催調整
 - ① 8月1日（火）「学校経営」：本吉地区「統合時における学校経営」
発表者 尾形 浩明 校長（条南中）
 - ② 10月3日（火）「教育課程」：東部地区「学校経営の実践事例」
発表者 山内 芳明 校長（石巻中）
 - ③ 2月8日（木）「生徒指導」：大河原地区「生徒指導上の課題に向けて」
発表者 小原 彰 校長（村田一中）
- (6) 東日本大震災被災校支援に係る対応業務
 - ① 全日中会長等来県対応（中止）
 - ② ベルマーク教育助成財団支援の対応
 - ③ ソロプチミスト義援金の対応（中止）
- (7) 私立高等学校との連絡会に係る対応業務
10月3日（火）ガーデンパレス
※本年度：私立高等学校担当
- (8) 令和6年度以降に向けて
 - ① 令和5年度事業の反省と次年度準備
 - ② 令和6年度総会に向けての準備
 - ③ 令和6年度全日中研究協議会への参加について（岩手大会）
 - ④ 各種団体からの義援金への対応と実務（現在はベルマークのみ）
- (9) その他
 - ① 古岡奨学会への対応等
 - ② 各種助成金・補助金への対応等
 - ③ 各関連団体との連絡調整

令和5年度 総務部

部長	橋元 伸二	(仙台・亶理中)
副部長	黒沼 俊郎	(東部・矢本二中)
部員	加藤 敏充	(大河原・川崎中)
	多田 陽	(北部・金成小中)
	尾形 浩明	(本吉・条南中)

研 究 部

部 長 千 葉 純 子
(登米市立登米中学校)



1 活動目標

- (1) 県内の中学校教育が直面する諸課題について検討・研究協議し、その解決等の方策を探り、関係機関への提言とする。
- (2) 県内各地区中学校長会の教育研究推進を図り、併せて宮城県中学校長会、東北地区中学校長会、全日本中学校長会の課題研究に対応する。

2 活動の概要

全日中及び東北地区、宮城県中学校長会の研究協議題を踏まえ、県内各地区の実情に応じてそれぞれ研究協議題を設定し、調査研究を推進する。

○大河原地区

「学習指導要領に対応した人材育成・資質向上、働き方改革の推進」

- 5月 活動計画の検討・確認
- 6月 地区研究協議会・北部大会中間発表
- 7月 地区研究協議会・実践事例発表
- 11月 調査集約・分析・考察
- 2月 地区研究協議会・実践事例発表
研究集録作成・次年度計画

○仙台地区

「次世代の学校運営を担う人材の育成」

- 6月 研究主題・研究計画・分担等検討
- 7月 実態調査・調査分析準備
- 8月 実態調査・分析
- 9月 調査結果の分析・まとめ
- 10月 原稿・プレゼン・資料等の点検
- 12月 研究発表・研究集録作成
- 2月 研究集録作成・次年度計画協議

○北部地区

「多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成」

- 6月 研究主題決定
- 9月 究の方向性の確認及び活動計画立案
- 10月 実態調査の実施
- 11月 調査結果の分析、考察
- 2月 今年度のまとめと次年度の計画等

○東部地区

「よりよく生きようとする意思や能力を育む道

徳教育の充実」

- 6月 研究の方向性等の構想
- 8月 研究の方向性の確認
- 9月 実態調査等について
- 11月 実態調査の分析と役割分担、原稿の校正
- 12月 研究のまとめ
- 2月 次年度計画等

○本吉地区

「自らの生き方を主体的に探究する力を高める
道徳教育の推進」

- 4月 東北大会発表に向けての準備
- 5月 今年度の活動・役割分担・リハーサル等
- 7月 東北大会発表を終えて
- 8月 調査実施
- 10月 調査結果の考察
- 12月 研究のまとめ
- 2月 管内小中校長会合同研修会で研究発表

3 活動の概要

(1) 第1回研究部会

- ・部長及び副部長の選出、活動内容等確認

(2) 第2回研究部会

- ・活動目標及び各地区研究部の活動状況の確認
- ・東北地区中学校長会研究協議会の発表地区より、発表までの取組等を報告
- ・県中学校長会研究協議会北部大会準備の進捗状況について情報提供

(3) 第3回研究部会

- ・県中学校研究協議会北部大会及び全日中研究協議会大分大会についての情報交換
- ・今後の県中学校長会研究協議会、全日中・東北地区中学校長会研究協議会の研究協議に向けての情報交換

令和5年度 研究部

部 長	千葉 純子 (登米市立登米中学校)
副部長	中 秀司 (柴田町立船岡中学校)
部 員	高橋 睦子 (名取市立第一中学校)
	菅原 恵美 (色麻町立色麻学園)
	野家 智昭 (涌谷町立涌谷中学校)
	阿部 一彦 (石巻市立北上中学校)
	宮崎 明雄 (気仙沼市立新月中学校)

行財政部

部長 小松 昭
(気仙沼市立松岩中学校)



1 活動目標

- (1) 学校運営に関する課題の解明と適正化に努める。
- (2) 人事に関する課題の解明と適正化に努める。
- (3) 財務内容について検討し、経理を適正に執行する。
- (4) 教育課程実施における課題の解明と適正化に努める。
- (5) 東日本大震災の復興に向けた課題の解明と適正化に努める。

2 活動内容

- (1) 学校運営に関する調査を行い、提言をまとめる。
- (2) 人事に関する調査を行い、提言等をまとめる。
- (3) 年間予算案の提示をする。
- (4) 収入・支出状況の把握と中間決算報告をする。
- (5) 決算報告をする。
- (6) 財務内容について検討し、次年度計画と予算案を作成する。
- (7) 教育課程実施における調査を行い、提言等をまとめる。
- (8) 東日本大震災の復興に向けた調査を行い、提言等をまとめる。(平成23年度より継続)

※令和2年度より実施してきた新型コロナウイルス感染症対策で抱える課題の調査については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行になったことより実施しない。

3 活動の概要

- (1) 活動計画と予算案の提示(4月24日)
 - ・ホテル白萩での地区会長会・理事会で会計決算報告、負担金、会費等の集金計画について説明する。
 - ・役員案として、部長を小松昭(新月中)、副部長を高橋禎毅(河南西中)を提示。また、今年度の活動目標及び活動内容、活動計画を提示。
- (2) 第1回行財政部会(4月24日)
- (3) 地区会長会・部長会・理事会(5月8日)
 - ・ホテル白萩にて、行財政部会の活動計画等説

明をする。

- (4) 総会・研修会(6月1日)
 - ・ホテル白萩にて、役員、決算並びに予算の承認と「人事等に関する調査」の協力について理事へ依頼する。
 - (5) 第2回行財政部会(6月1日)
 - ・「人事等に関する調査」を各部員にメールで送付する。地区行財政部員から各校へ調査協力の依頼をする。
- ※地区・県集計表を活用
- (6) 第3回行財政部会(6月29日)
 - ・「人事等に関する調査」の回答を回収し、その結果を地区ごと部員が集計する。
 - (7) 第4回行財政部会(7月14日)
 - ・「人事等に関する調査」の地区集計表をメールで部長(松岩中)に送信する。
 - (8) 県全体集計(8月25日)
 - ・地区集計表をもとに県全体の集計を行い、部長が印刷・製本する(53頁、表裏印刷、180部製本)。
 - (9) 第5回行財政部会(8月28日)
 - ・調査結果の冊子を部員に郵送する(各地区会員数部及び事務所2部)。
 - ・部員から地区会員に冊子を配付する(県教委 県教育長等へは14部 県会長が持参、教育事務所長・班長へは地区会長・地区行政部長持参)。
 - (10) 会計中間報告及び中間監査(9月22日)
 - ・ホテル白萩にて、会計中間報告を行い、会計中間監査を受ける。
 - (11) 第6回行財政部会(1月)
 - ・部長より、本年度の反省と令和5年度の計画等について部員へメール送信し、部員は内容を検討の上、部長に送信する。
 - (12) 監査会(3月18日)
 - ・ホテル白萩にて、会計監査を受ける。

令和5年度 行財政部

部長	小松 昭	(気仙沼市立松岩中学校)
副部長	高橋 禎毅	(石巻市立河南西中学校)
部員	目々澤辰悟	(蔵王町立遠刈田中学校)
	佐藤 広昭	(富谷市立富谷中学校)
	阿部 剛	(栗原市立栗原南中学校)

情報部

部長 佐々木 晃
(大崎市立古川中学校)



1 活動目標

- 必要に応じて適切な情報を会員に提供すると同時に、資料の適切な収集保存に努める。
- 広報業務やホームページ等、情報発信に係る適切な業務遂行と管理に努める。

2 活動内容

- (1) 広報活動を推進し、記録や報告を通して活動の理解と活性化に努める。
 - 宮城県中学校長会「会報」の発行
 - 宮城県中学校長会「紀要」の発行
 - 宮城県中学校長会ホームページの管理・更新
- (2) 全日中機関誌「中学校」の編集部協力委員として、原稿の執筆調整等を行う。
- (3) 宮城県中学校長会の広報活動に関する記録や報告資料の電子化を推進する。

3 活動の概要

- (1) 宮城県中学校長会総会における対応
 - 期 日：令和5年6月1日
 - 活動内容
 - ・会場及び開会中の記録写真等の撮影
 - ・各種挨拶文等のデータ収集
- (2) 「会報」149号の発行
 - 発行日：令和5年8月1日
 - 内 容
 - ・第74回宮城県中学校長会総会概略
 - ・会長及び教育長挨拶，新会員代表挨拶
 - ・宣言，決議
 - ・新任校長12人の抱負
 - ・編集後記
 - ※全12ページ
- (3) 「紀要」の発行
 - 発行日：令和6年3月1日
 - 内 容：第1部
 - ・令和5年度の事業について
 - ・活動方針，宣言，決議
 - ・巻頭言（会長挨拶）
 - ・役員名簿，会務分掌
 - ・事業実施状況
 - ・各部の活動報告
 - ・県中体連の動き
 - ・各地区校長会の動き
 - ・各地区の研究報告
- (4) 宮城県中学校長会ホームページの管理・更新

- 更新内容 ※（ ）は更新時期
 - ・会長挨拶（6月，12月の2回）
 - ・宮城県中学校長会年間事業計画（6月）
 - ・宮城県中学校長会活動方針（6月）
 - ・宣言，決議文（6月）
 - ・宮城県中学校長会運営規程（6月）
 - ・会報149号の掲載（8月）
 - ・研究協議会北部大会資料の掲載（9月）
 - ・紀要の掲載（令和6年3月）

(5) 情報部会の開催

① 第1回部会（ホテル白萩）

○開催日：令和5年4月24日

○活動内容

- ・正副部長等の互選
- ・年間計画の確認
- ・活動目標・活動内容の検討
- ・情報交換

② 第2回部会（ホテル白萩）

○開催日：令和5年5月18日

○活動内容

- ・会報149号発行について（内容検討，役割分担等）
- ・全日中機関誌「中学校」掲載のグラビア写真の選定についての確認等
- ・情報交換

③ 第3回部会（ホテル白萩）

○開催日：令和5年7月3日

○活動内容

- ・会報149号の最終校正
- ・全日中機関誌「中学校」掲載のグラビア写真の選定
- ・今後の活動確認
- ・「紀要」発行について（内容及び作成日程，業務分担の確認）
- ・情報交換

④ 第4回部会（ホテル白萩）

○開催日：令和6年2月6日

○活動内容

- ・紀要最終校正
- ・次年度計画の立案
- ・情報交換

令和5年度 情報部

部長：佐々木 晃（大崎市立古川中学校）
副部長：阿部 勇志（石巻市立渡波中学校）
部員：松崎 恵子（村田町立村田第二中学校）
 ：白鳥 修（山元町立山元中学校）
 ：藤山 篤（気仙沼市立津谷中学校）

指導部

部長 渥美 寿彦
(白石市立白石中学校)



1 活動目標

- (1) 豊かな心の教育の充実を中核とした生徒指導の推進を図る。
- (2) 生徒指導上の今日的課題の解明とその対策を探る。
- (3) 特別支援教育のあり方を探る。

2 活動内容

- (1) 生徒指導に関する諸問題の調査研究を行う。
- (2) 関係諸機関との行動連携の強化を図る。
- (3) 学校間の連携と情報交換の緊密化を図る。
- (4) 特別支援教育の現状と課題について研究し、適切な教育支援のあり方を探る。
- (5) 教育課題の調査研究を行う。

3 活動の概要

- (1) 令和5年4月24日(月)
第1回指導部会
 - ・役員選出
 - ・活動目標、内容、計画の検討
 - ・研究テーマについての協議
 - ・各地区指導部活動等についての情報交換
 - ・各地区における教育活動の取組に関する情報交換
- (2) 令和5年6月13日(火)
第2回指導部会
 - ・活動計画の確認
 - ・令和5年度の調査研究内容、調査の流れ、分析方法等について協議
 - ・調査方法として「GoogleForms」を活用することを決定
 - ・今後の日程と役割分担の確認
- (3) 令和5年6月下旬
 - ・部長から各地区部員に調査研究内容の最終原案を提示し、意見を集約
- (4) 令和5年7月3日(月)
 - ・部長から各地区部員へメールにて配布用調査依頼文書を送信
 - ・各地区部員から全会員に向けて調査依頼文書を送信し、「GoogleForms」にてアンケート形式で調査を実施
- (5) 令和5年8月31日(木)
アンケート調査締切

- (6) 令和5年9月中
アンケート調査の集計作業
- (7) 令和5年10月上旬
 - ・部長から、メールにてアンケート結果を各地区指導部員に提示し、共有を図る。
 - ・部長から各地区毎の傾向や課題等についての分析・考察を依頼
- (8) 令和5年10月19日(木)
第3回指導部会
 - ・研究調査結果の確認及び分析・考察内容の検討
 - ・各地区の傾向及び分析・考察内容の検討
 - ・調査研究結果報告書の体裁、配付方法、配付対象等について確認
- (9) 令和5年10月下旬
 - ・電話及びメールで、各地区指導部員と報告書に関する最終的な調整等を実施
 - ・会長、事務局等に結果(案)を提示し、会員への報告について承認を受ける。
- (10) 令和5年11月1日(水)
 - ・各地区部員を通じ、県内各校長にメールにて調査研究結果を報告
 - ・関係機関等に報告書を配付
- (11) 令和6年2月8日(木)
 - ・県中学校長会地区会長会・部長会、県中学校長会理事会において、指導部長が今年度の調査研究結果の概要を報告

令和5年度 指導部

部長	渥美 寿彦	(白石市立白石中)
副部長	菅原 栄夫	(登米市立南方中)
部員	阿部 篤史	(富谷市立東向陽台中)
〃	一條 一也	(美里町立不動堂中)
〃	狩野 浩二	(栗原市立栗駒中)
〃	高橋 有	(南三陸町立志津川中)
〃	佐藤 修二	(石巻市立稲井中)

令和5年度 宮城県中学校体育連盟の動き

宮城県中学校体育連盟 会長 洞 口 乃



県校長会の皆様におかれましては、本連盟の活動に対しまして、日頃より御理解、御協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、今年度の第72回宮城県中学校総合体育大会では、新型コロナウイルス感染症が5類となり、コロナ禍前の大会運営に戻しながらも感染症対策をしながらの大会運営となりました。加えて全国的な猛暑日が続く中、熱中症対策の準備と対応をしながら、宮城県教育委員会の御理解と御協力、全競技専門部の丁寧な準備と対策運営、競技団体や保護者の方々の温かい支援により、大会を無事に終了できました。校長会の皆様には、競技期間中、役員として活躍していただいた先生方の派遣について、特段の御配慮をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

また、運動部活動を取り巻く環境は、地球温暖化による熱中症対策、少子化や働き方改革、さらには部活動の地域移行により、今年度の全国中学校体育大会から地域クラブ活動の大会参加が緩和されましたが、今年度は大きな混乱もなく全国大会への宮城県予選会に参加することができました。さらに令和6年度の地域クラブ活動の大会参加に向けて県保健体育安全課、県スポーツ振興課、県スポーツ協会、県内競技団体、各郡市中体連、全競技専門部と宮城県予選会の在り方情報交換会を3回実施し、方向性を定めることができました。そのような中、令和6年度は県中体連の地区割再編が始まります。今後の持続可能な中体連運営を考慮しての取組となります。今後も県中体連は関係機関と連携し、諸課題の解決と生徒の夢と希望、これからの社会をより良く生きる力を育むために、各事業に取り組んでまいりたいと思います。

○今年度の主な取組

- ①「第1回評議員会（4/26）」：会長洞口乃（仙台・鶴が丘）、副会長太田博文（仙台・松陵）、小原彰（大河原・村田一）、小林信之（仙台南・みどり台）、島田拓（仙台北・高崎）、木村啓（北部・鹿島台）、千葉正人（東部・蛇田）、狩野浩二（旧北部栗原・栗駒）、長倉清敬（旧東部登米・豊里）、亀谷寿之（本吉・鹿折）を選出。
- ②宮城県中総体（7/22～25）、駅伝（10/4）、フィギュアスケート（10/7）、スピードスケート（12/8会場：福島県郡山市）、スキー（R6.1/12～14）
- ③東北大会宮城県実施種目：ハンドボール（8/1～3）、卓球（8/4～6）、ソフトボール（8/5～6）
フィギュアスケート（11/10）
- ④臨時副会長会（5/9・10/24）：新人大会への地域クラブ活動の参加と負担金について審議。
- ⑤「第2回評議員会（11/1）」：次年度大会要項等を審議、次年度以降の加盟負担金について、令和6年度における地域クラブ活動の取扱いについて承認。
- ⑥「全国中学校体育大会への参加資格緩和に係る宮城県予選会の在り方情報交換会（7/19・9/27・10/25）」：3回実施。

中学校の部活動は、今年度から地域移行への過渡的な時期に入りました。今後もよりよい中体連運営となるよう校長先生方の御協力をお願いいたします。

第72回 宮城県中学校総合体育大会成績一覧 (団体)

種 目		第 一 位	第 二 位	第 三 位			
陸 上 競 技	男	寺 岡	中 野	郡 山	仙 台 一		
	女	七 北 田	郡 山	長 町	* * *		
水 泳	競 泳	男	郡 山	富 谷 二	東 北 学 院		
		女	大 河 原	田 子	附 属		
	飛 込	男	* * *	* * *	* * *	* * *	
		女	* * *	* * *	* * *	* * *	
バスケットボール		男	五 橋	東 北 学 院	成 田		
		女	仙 台 一	長 町	五 橋	宮 城 野	
サ ッ カ ー		東 北 学 院	南 中 山	松 島	台 原		
ハ ン ド ボ ー ル		男	成 田	古 川	田 尻		
		女	成 田	仙 台・中 田	古 川	岩 切 郷	
野 球		高 崎	山 元	村 田 一	名 取 一		
体 操		器 械	男	中 新 田	東 北 学 院	* * *	
			女	長 町	吉 成	* * *	
		新 体 操	男	白 石 東	白 石	* * *	* * *
			女	七 北 田	長 町	錦 ケ 丘	* * *
バレーボール		男	高 砂	富 沢	み どり 台		
		女	田 尻	六 郷	東 仙 台	蛇 田 古 川	
ソフトテニス		男	向 陽 台	東 北 学 院	白 石		
		女	錦 ケ 丘	宮 床	北 仙 台	4位 利 府 西	
卓 球		男	登 米 中 田	東 仙 台	高 砂		
		女	三 本 木	宮 床	大 郷	白 石 利 府 西	
バドミントン		男	聖ウルスラ学院英智	荒 浜	沖 野		
		女	聖ウルスラ学院英智	中 野	み どり 台	柳 生 登 米 中 田	
ソフトボール		男	佐 沼	古 川 東	* * *		
		女	高 森	利 府	矢 本 二	* * *	
柔 道		男	大 和	角 田	塩 竈 一		
		女	万 石 浦	T I S	角 田	万 石 浦 豊 里	
剣 道		男	岩 沼 西	蛇 田	仙 台 一		
		女	聖ドミニコ	宮 城 野	角 田	南 小 泉 北 仙 台	
弓 道		男	東 豊 A	古 川 黎 明 A	利 府 B		
		女	東 豊 A	東 北 学 院 A	広 瀬 D	* * *	
相 撲		渡 波	栗 駒	古 川	* * *		
ホ ッ ケ ー		男	築 館	栗 原 西	* * *		
		女	* * *	* * *	* * *		
駅 伝		男	しらかし台	東 向 陽 台	長 町		
		女	長 町	古 川 東	西 山	4位 八 乙 女 4位 高 砂	

各地区校長会の動き

大河原地区校長会

会長 齋藤 祐一



I 活動方針

私たち中学校長は、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育むとともに、Society5.0時代に求められる学校づくりに向けて、リーダーシップを発揮し、「学校における働き方改革」の実現を含め、学校からの教育改革を推進しなければならない。

ポストコロナにおける教育活動の充実と学校からの教育改革を推進の柱として、次の活動方針に基づき、管内中学校教育の充実と発展を期する。

1 管内中学校長会の機能を充実し、活動の活性化に努める。

- (1) 各市町・各部、小学校、特別支援学校、高等学校の校長会との連携した活動の推進
- (2) 教育研究及び広報活動並びに諸事業の充実
- (3) 関係諸機関との連携の促進及び教育課題の解決と提言
- (4) 教育改革に関する迅速な対応と情報の発信
- (5) 校長としての資質・能力の向上を図る研修の充実

2 創意ある教育課程を編成し、確かな学力の向上と個性を生かす教育の推進に努める。

- (1) 学習指導要領の趣旨の実現を図る教育課程の編成、実施、評価、改善
- (2) 基礎・基本の確実な習得と、それらを活用する能力及び学びに向かう力を育てる指導・評価の工夫改善
- (3) 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育むための「カリキュラム・マネジメント」の確立

3 当面する教育課題の解決に努める。

- (1) ポストコロナにおける教育活動の継続と改善
- (2) 多発する自然災害に対応するための、地域に根ざした防災・安全教育の推進実践
- (3) 心の教育を中心に据えた生徒指導の充実と、いじめを生まない学校体制の確立
- (4) 多様な学びの確保など不登校支援の充実
- (5) 志教育の視点に立った教育活動の展開

- (6) 特別支援教育への適切な対応
- #### 4 家庭や地域社会に信頼される学校づくりに努める。
- (1) 地域の一員として信頼される教職員の育成
 - (2) 学校改善につながる学校評価システムの工夫
 - (3) 諸機関との連携を密にした危機管理の徹底
 - (4) 教職員の適正な評価による資質向上と教育実践に結びついた現職教育の充実
- #### 5 教育諸条件の整備・充実と職責に見合う待遇改善の実現に努める。
- (1) 義務教育費国庫負担制度や人材確保法の堅持
 - (2) 教育改革推進のための人的配置と学校運営予算の充実
 - ① 教職員の定数改善と学習指導要領の趣旨・内容に即応した人的配置
 - ② 施設・設備の充実と学校裁量予算の増額
 - (3) 教職員の諸手当や旅費等の充実及び待遇改善
 - (4) 校長・教頭の特別調整額の新設及び退職時における待遇の改善
 - (5) 「学校における働き方改革」を踏まえた部活動の在り方の検討

II 組織と運営

1 組織

本会は下記3地区、2市7町21中学校の校長で組織される。

- (1) 白石・刈田地区（白石市・蔵王町・七ヶ宿町） 9校
- (2) 柴田地区（大河原町・村田町・柴田町・川崎町） 9校
- (3) 角田・伊具地区（角田市・丸森町） 3校

2 役員

会則により、会長1名、副会長1名は、各市町代表をもって互選する。理事には、会長・副会長以外の市町代表があたる。各部長には理事があたるが、他の会員に適任者がいればその者があたる。監事は白石刈田・角田伊具地区と柴田地区からそれぞれ各1名選出する。

- 会長 齋藤 祐一（角田中 角田市）
○副会長 小原 彰（村田一中 中体連・村田町）
○理事 佐藤 亨（大河原中 顧問）
加藤 敏充（川崎中 川崎町・総務部）

渥美 寿彦 (白石中 指導部)
柏 良行 (福岡中 白石市・会計)
川村 陽一 (七ヶ宿中 七ヶ宿町)
目々澤辰悟 (遠刈田中 蔵王町・行財政部)
松崎 恵子 (村田二中 広報部)
中 秀司 (船岡中 柴田町・研究部)
三浦 道子 (船迫中 中教研)
小野寺 徹 (丸森中 丸森町)

○監事 嶋原 薫 (小原中)
渡邊真由美 (富岡中)

3 各部・委員会等

(1) 総務部

部長 加藤 敏充 (川崎中)
副部長 小野寺 徹 (丸森中)
会計 柏 良行 (福岡中)

(2) 研究部

部長 中 秀司 (船岡中)
副部長 山下 正人 (宮中)
部員 嶋原 薫 (小原中)
万城目堅也 (円田中)
山家 一博 (北角田中)
伊藤 由啓 (槻木中)

(3) 行財政部

部長 目々澤辰悟 (遠刈田中)
副部長 渡邊真由美 (富岡中)

(4) 広報部

部長 松崎 恵子 (村田二中)
副部長 三浦 道子 (船迫中)
部員 石川 裕之 (東中)
我妻 聡美 (白石南中)

(5) 指導部

部長 渥美 寿彦 (白石中)
副部長 遠藤 和弘 (金ヶ瀬中)
部員 川村 陽一 (七ヶ宿中)
佐藤 亨 (大河原中)

(6) 宮城県特別支援学級・通級指導教室設置学 校長協議会

評議員 渥美 寿彦 (白石中) 大特研会長
監事 小野寺 徹 (丸森中)

III 活動の概要

1 各市町代表者会議 [4月3日 (月) 角田中]

2 総会 [4月12日 (水) 合庁]

◎総会 I

- ① 新会員の紹介
- ② 協議 I 役員選出, 関係諸団体所属確認

◎総会 II

① 令和4年度事業・決算・監査報告

② 令和5年度事業及び予算案の審議と承認

3 理事会

① 第1回 5月10日 (水) 角田中

○各部の運営計画について

○第1回研究協議会の計画について

○東北中学校長会研究協議会福島大会及び全
日中大分大会について

② 第2回 9月1日 (金) 角田中

○各部の運営計画について

○第2回研究協議会の計画について

○管内小・中学校長会連絡協議会について

③ 第3回 12月4日 (月) 角田中

○第2回研究協議会の反省

○第3回研究協議会の計画について

○令和6年度の準備について

④ 第4回 2月22日 (木) 大河原中

○理事会の前に監査会を実施する。

○5年度事業の反省と会計決算について

○6年度活動方針, 事業計画等について

○6年度役員選出について

○6年度総会 I・II について

4 研究協議会

(1) 第1回 6月7日 (水) 角田市市民センター

①報告・連絡・協議

②研修講話

○研修 I 星 信浩 (大河原教育事務所)

○研修 II 県研究協議会北部大会に向けて
中 秀司 研究部長 (船岡中)

(2) 第2回 7月28日 (金) 大河原中央公民館

①報告・連絡・協議

②研修講話

山家 一博 (北角田中) 伊藤 由啓 (槻木中)

川村 陽一 (七ヶ宿中) 万城目堅也 (円田中)

(3) 第3回 2月9日 (金) ございんホール

①報告・連絡・協議

②研修講話

○研修 I 加川 広重氏 (画家)

○研修 II 嶋原 薫 (小原中)

渥美 寿彦 (白石中)

石川 裕之 (東中)

5 その他の活動

(1) 管内中学校長・仙南地区高等学校長連絡協
議会の開催 7月4日 (火) 大河原産業高校

仙台地区校長会

会 長 玉野井 ゆかり



- ③名取地区（名取市） 5校
- ④塩竈地区（塩竈市） 5校
- ⑤多賀城地区 10校
（多賀城市・利府町・松島町・七ヶ浜町）
- ⑥富谷黒川地区 9校
（富谷市・大和町・大郷町・大衡村）

I 活動方針

会員相互の連絡調整及び学校教育全般にわたる研究協議を行い、もって管内学校教育の振興に寄与するものとする。

II 組織と運営

1 運営と主なねらい

- (1) 学校運営についての研修・研究協議を行う。
- (2) 教育上必要な事項についての研究・調査及び協議を行う。
- (3) 教育団体との連絡調整を行う。
- (4) 管内教職員を持って構成する教育関係諸団体に対する指導・助言を行う。
- (5) その他管内学校教育の振興に必要な事業を行う。

2 組織

(1) 組織の概要

本会は、仙台市を南北に挟んだ5市7町1村の13市町村38校の会員38名で構成されている。

会長・副会長2名、6地区から8名の地区理事と専門部理事2名、総務4名、会計、中体連2名、中教研の計21名で理事会を開き、会の運営を審議している。この外に各市町村に評議員を置き、連絡調整にあたりとともに、監事3名を置いている。

専門部には研究部と指導部があり、全会員の協力のもとに、両専門部の役員・委員が中心となり研究推進に当たっている。両専門部とも毎年年末に開催される管内研究協議会で研究実践の成果を発表し、協議を行い、研究を深めている。

(2) 地区と会員数

- ①亘理地区（亘理町・山元町） 5校
- ②岩沼地区（岩沼市） 4校

(3) 役員

- | | |
|-------|----------------|
| 会 長 | 玉野井 ゆかり(増 田 中) |
| 副 会 長 | 中 里 和 裕(多賀城中) |
| | 宮 本 利 浩(岩 沼 中) |
| 地区理事 | 高 野 薫(塩竈一中) |
| | 小 野 美 和(利府西中) |
| | 浅 野 芳 博(松 島 中) |
| | 堀 内 恵理子(荒 浜 中) |
| | 山 田 敦 子(岩沼西中) |
| | 本 田 正 晴(名取二中) |
| | 佐 藤 広 昭(富 谷 中) |
| | 八 卷 利栄子(大 和 中) |
| 研 究 | 高 橋 睦 子(名取一中) |
| 指 導 | 阿 部 篤 史(東向陽台中) |
| 総 務 | 橋 元 伸 二(亘 理 中) |
| | 熊 谷 正 広(利 府 中) |
| | 高 野 薫(塩竈一中) |
| | 堀 内 恵理子(荒 浜 中) |
| 会 計 | 山 田 敦 子(岩沼西中) |
| 中 体 連 | 島 田 拓(高 崎 中) |
| | 小 林 信 之(みどり台中) |
| 中 教 研 | 加 茂 博 行(岩沼北中) |
| 評 議 員 | 尾 形 知 明(塩竈三中) |
| | 紙 谷 ゆたか(閑上小中) |
| | 窪 寺 祐 二(吉 田 中) |
| | 白 鳥 修(山 元 中) |
| | 佐 藤 秋 生(玉 浦 中) |
| | 浅 野 芳 博(松 島 中) |
| | 阿 部 欽 一(東 豊 中) |
| | 三 浦 敏(七ヶ浜中) |
| | 尾 形 裕(しらかし台中) |
| | 八 卷 利栄子(大 和 中) |
| | 菊 池 信 行(大 郷 中) |
| | 渡 部 恭(日吉台中) |
| | 伊 藤 重 和(大 衡 中) |
| 監 事 | 岩 渕 克 洋(浦戸小中) |

小林 信之(みどり台中)
伊藤 重和(大衡中)

所長 星 和彦 様
演題：「学び続ける教師と子供たちを目指した学校経営～人生100年時代の学びと実践を目指して～」

3 専門部

(1) 研究部

研究テーマ

「次世代の学校運営を担う人材の育成～学校経営の実践例からの学びを通して～」

部長 高橋 睦子(名取一中)
副部長 白鳥 修(山元中)
齋藤 守彦(玉川中)
部員 佐藤 秋生(玉浦中)
阿部 欽一(東豊中)
三浦 敏(七ヶ浜中)
大泉 真澄(宮床中)
星 淳(富谷二中)

(2) 指導部

研究テーマ

「生徒を取り巻く社会環境に係る諸課題への校長の取組～不登校生徒への学びの保障について～」

部長 阿部 篤史(東向陽台中)
副部長 本田 正晴(名取二中)
高橋 知美(成田中)
部員 我妻 敬一(塩竈二中)
星 直美(逢隈中)
加茂 博行(岩沼北中)
木村 真也(多賀城二中)
高橋 松雄(向洋中)

- 5 8月18日(金)(富谷武道館)
○第2回理事会・評議員会 中止
○第2回小・中合同理事会 中止
- 6 9月26日(火)(仙台合庁)
○第2回小・中合同研修会
講師：宮城県総合教育センター
特別支援教育班 班長
副参事(指導主事) 大枝 香苗 様
演題：「特別支援教育の充実に向けて」
- 7 10月24日(火)(富谷武道館)
○第3回理事会
- 8 12月8日(金)(ホテル白萩)
○中学校長会研究協議会
(研究部・指導部による発表・グループワーク)
○全体懇談会
- 9 12月15日(金)(富谷武道館)
○第4回理事会
- 10 2月1日(木)(富谷武道館)
○小・中合同役員会
- 11 2月19日(月)(仙台合庁)
○小・中合同「感謝・祝賀の集い」
- 12 2月22日(木)(ホテル白萩)
○会計監査会
○中学校長会全体会・懇談会

III 活動の概要

- 1 4月6日(木)(富谷武道館)
○地区代表者会
・令和5年度事業計画 等
○小・中合同代表者会
- 2 4月19日(水)(仙台合庁)
○中学校長会総会
- 3 5月26日(金)(富谷武道館)
○第1回理事会
○第1回小・中合同理事会
- 4 7月11日(火)(仙台合庁)
○第1回小・中合同研修会
講師：宮城県仙台教育事務所

IV 大会参加・発表

- 東北地区中学校長会研究協議会福島大会
全会員：オンラインでの参加
- 全日本中学校長会研究協議会大分大会
6名参加

V 今後

コロナ禍で得た知恵と工夫を生かした教育活動を各校において展開してきた。それらの創意工夫あふれる取組を校長同士が共有・自校化して、ともに高め合っていく校長会となるよう一層の組織の充実・発展を図りたい。

北部地区校長会

会長 名取 秀樹



I 活動方針

コロナ禍は社会の混乱を招き、学校からは生徒の自由闊達な生活を奪った。我々教員は、我慢と観念を強いられる彼らに寄り添う距離感さえも否定された。惨禍が明けた後、学校現場には新たなそして未知の教育課題が生じることは間違いない。だからこそ校長には、生徒の「社会を生き抜く力」、「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する学校経営が、より一層求められることになる。

北部地区中学校長会（2市4町25校）は、以下の活動方針に基づき、組織として相互の連携を深め、多岐に渡る教育課題に適切に対応し、中学校教育の一層の充実、発展を図っていく。

II 組織と運営

1 役員及び専門部

(1) 役員

会長	名取 秀樹(古川南中)
副会長(会長代行)	小野ゆかり(南郷中)
副会長	小野寺英一(鳴峰中)
〃	多田 陽(金成小中)
〃	福田 功(古川北中)
監事	後藤 玄(中新田中)
〃	佐藤 勇寿(小牛田中)
事務局長	佐藤 仁(古川東中)

(2) 総務部

部長	多田 陽(金成小中)
部員	名取 秀樹(古川南中)
〃	福田 功(古川北中)
〃	古山 明宏(築館中)
〃	小野寺英一(鳴峰中)
〃	小野ゆかり(南郷中)

(3) 研究部

部長	菅原 恵美(色麻学園)
部員	日野口 香(松山中)

部員	高橋 理香(岩出山中)
〃	三浦 美紀(田尻中)
〃	村上 卓(若柳中)
〃	若生 亮(栗原西中)
〃	野家 智昭(涌谷中)

(4) 行財政部

部長	阿部 剛(栗原南中)
部員	木村 啓(鹿島台中)
〃	新田 努(三本木中)
〃	佐藤 勇寿(小牛田中)

(5) 情報部

部長	佐々木 晃(古川中)
部員	築田 智志(鳴子中)
〃	鈴木 司(志波姫中)
〃	後藤 玄(中新田中)

(6) 指導部

部長	一條 一也(不動堂中)
部員	笹川 清治(古川西小中)
〃	佐藤 仁(古川東中)
〃	狩野 浩二(栗駒中)

2 運営・活動の重点

(1) 組織機能の充実と活動の活性化

- ① 県中学校長会・仙台市中学校長会及び北部管内小学校長会・中学校長会連絡協議会並びに高等学校長会と連携した教育活動の推進
- ② 教育研究及び広報活動並びに諸事業の充実
- ③ 関係機関との連携の促進
- ④ 教育改革に関する迅速な対応と情報の推進

(2) 創意ある教育課程を編成及び確かな学力の向上と個を生かす教育の推進

- ① 学習指導要領の趣旨の実現を図る教育課程の編成と充実
- ② 基礎・基本の定着と学習意欲の向上を図る指導と評価の改善
- ③ 「豊かな心」と「健やかな体」を育む指導の充実

(3) 当面する教育課題の解決

- ① 東日本大震災の教訓を生かし、実践につながる防災・安全教育の推進

- ② 全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」の推進
 - ③ 心の教育を中心に据えた生徒指導の推進
 - ④ 確固たる規範意識の醸成やいじめを見逃さない学校体制の確立
 - ⑤ 志教育の視点に立った教育活動の展開
 - ⑥ 高等学校入学者選抜の改善への対応
 - ⑦ 特別支援教育の適切な対応
- (4) 家庭や地域社会に信頼される学校づくり
- ① 地域の一員として信頼される教職員の育成
 - ② 学校改善につなげる学校評価システムの工夫（自己評価と学校関係者評価の活用）
 - ③ 諸機関との連携を密にした危機管理の徹底
 - ④ 教職員の適正な評価による資質向上と教育実践に結び付ける現職教育の充実
- (5) 教育書条件の整備・充実
- ① 部活動の諸条件の整備及び将来を見通した在り方の検討
 - ② 適切な人事評価の施行

Ⅲ 今年度の活動概要

- 1 第1回郡市代表者会(小・中合同)(4月5日)
 - 2 管内中学校長会総会 (4月12日)
 - (1) 令和5年度 会則・活動方針の審議
 - (2) " 事業計画・会計予算の審議
 - (3) " 会費徴収計画の審議
 - (4) " 役員・専門部員選出
 - 3 第1回管内中学校長会理事会(5月11日)
 - 4 第1回管内中学校長会研究協議会(6月6日)
 - (1) 研修Ⅰ(小・中連絡協議会合同)講演
演題：子どもたちに伝える“性の多様性”
講師：宮城県教育庁保健体育安全課
体育指導 COORD. 高橋 千春様
 - (2) 研修Ⅱ(中学校研究協議会)話題提供
発表者：日野口 香(松山中)
新田 努(三本木中)
三浦 美紀(田尻中)
鈴木 司(志波姫中)
野家 智昭(涌谷中)
- ※ 今年度の新入会員の校長先生の中から5

名の方に学校経営に関する話題を提供していただいた。

- 5 第2回管内中学校長会理事会 (9月7日)
- 6 第3回管内中学校長会理事会 (11月30日)
- 7 第2回管内中学校長会研究協議会(1月12日)
研修(小・中連絡協議会合同)講演
演題：「六日町通り商店街の人々」
講師：CAFE かいめんこや(栗原市)
杉浦 風ノ介様
- 8 第4回管内中学校長会理事会 (2月14日)
- 9 第2回郡市代表者会(小・中合同)(3月12日)
- 10 第5回管内中学校長会理事会 (3月22日)

Ⅳ 各種研究大会への参加

- 宮城県中学校長会総会・研修会(6月1日)
- 第73回東北地区中学校長会研究協議会福島大会(Web参加)(6月30日)
- 第41回宮城県中学校長会研究協議会北部大会(全員参加)(10月13日)
- 第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会(4名参加)(10月25・26日)

Ⅴ 終わりに

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことに伴い、5月を境に学校には多くの行事が戻ってきた。それは同時に、経営責任者としての校長の新たな苦悩の始まりでもあった。学校がそれぞれ独自に対応することが許されることは、当然のことながら、校長はその責任の重さを痛感することになる。そのようなとき、本会では互いの情報の共有、善後策の検討や助言などが頻繁になされた。示唆に富んだ互いの忠言は、その決断に大いに役立った。

10月、4年ぶりの本会研究協議会を当地区が担当して開催することができたことは大きな喜びであった。コロナ明け初の完全参集型により、新しいスタイル且つ持続可能な運営の提案をさせていただいた。成功に向けて幾度にも渡る実行委員会をはじめ部毎に協議を重ねた経験は、会員の連携を強めるとともに大きな自信を生み出した。県校長会全会員の皆様に心から感謝申し上げます。

本吉地区校長会

会長 齋藤博厚



I 活動方針

本吉地区中学校長会（気仙沼市と南三陸町の12校）は、これまでの復興への歩みとコロナ禍における対応等の経験をもとに、次代を担う人間性豊かで創造性に富む日本人の育成に向け、「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育む教育に一層尽力する。そして、令和の日本型学校教育を推進しながら、新しい時代に求められる学校づくりに向けて、強くしなやかなリーダーシップを発揮する。

II 運営の方針

- 1 地区内12校及び気仙沼市と南三陸町の教育の情報交換と連携を一層密にすること
- 2 震災からの教育の復興を受け、生徒や地域の実態をふまえ、カリキュラム・マネジメントを計画的・組織的に推進していくこと
- 3 学校課題に応じた積極的な学校経営を進めること
- 4 新型コロナウイルス感染症等への対応に、関係機関と連携して取り組むこと

III 活動の重点

- 1 組織機能の充実と他団体との連携・協力
 - (1) 学校教育課題に関する情報交換と相互研修を定期的に実施する。
 - (2) 全日本中学校長会及び県中学校長会と一体化した活動を行う。
 - (3) 当地区小学校長会及び高等学校長会等との連携を強化する。
 - (4) 中体連及び市町との連携のもとに、学校部活動の地域移行に関する情報共有を行い、学校部活動の在り方について検討を行う。

IV 組織と運営

本会は気仙沼市と南三陸町の12校で組織している。

1 役員

会長	齋藤博厚	(気仙沼中)
副会長	亀谷寿之	(鹿折中)
副会長	尾形浩明	(条南中)
幹事	高橋有	(志津川中)
幹事	熊谷岳哉	(歌津中)
幹事	宮崎明雄	(新月中)
幹事	小松昭	(松岩中)
幹事	一丸孝博	(階上中)
幹事	吉川泉	(面瀬中)
幹事	菅原英二	(唐桑中)
幹事	村上敬子	(大谷中)
幹事	藤山篤	(津谷中)

2 専門部

総務部	◎尾形浩明	(条南中)
	村上敬子	(大谷中)
研究部	◎宮崎明雄	(新月中)
	亀谷寿之	(鹿折中)
	一丸孝博	(階上中)
	齋藤博厚	(気仙沼中)
行財政部	◎小松昭	(松岩中)
	吉川泉	(面瀬中)
情報部	◎藤山篤	(津谷中)
	熊谷岳哉	(歌津中)
指導部	◎高橋有	(志津川中)
	菅原英二	(唐桑中)

3 諸会議

- (1) 地区総会
- (2) 地区全体研修会
- (3) 小・中学校長会合同総会・役員会
- (4) 小・中学校長会合同研修会
- (5) 中・高・特別支援学校連絡協議会

V 活動の概要

1 事業報告

総会・研修会	4月14日	(金)
小・中合同総会	4月14日	(金)
第1回全体研修会	5月22日	(月)
臨時全体研修会	6月28日	(水)
臨時全体研修会	7月27日	(木)
第2回全体研修会	9月14日	(木)
第3回全体研修会	10月20日	(木) 中止
第4回全体研修会	12月8日	(金)

- 第5回全体研修会 2月20日(火)
- 2 全体研修会
- (1) 主な内容
- ① 県地区会長会, 理事会, 各部会からの報告
- ② ポストコロナの学校経営について
- ③ 学校運営上の諸課題についての意見交換
- (2) 第1回全体研修会 5月22日(月)
- ① 県中学校長会総会実施内容と組織・役割分担等の確認
- ② 地区中総体の合同チームについて
- ③ 学校経営上の諸課題についての意見交換
- (3) 臨時全体研修会 6月28日(水)
- ① 県中学校長会総会の振り返り
- ② 令和6年度県中学校長会研究協議会本吉地区大会
- ③ 本吉地区教育研究会, 本吉地方学校保健会の事務局ローテーション
- (4) 臨時全体研修会 7月27日(木)
- ① 令和6年度県中学校長会研究協議会本吉地区大会について
- ② 地区中体連新人大会の合同チーム
- ③ 学校経営上の諸課題についての意見交換
- (5) 第2回全体研修会 9月14日(木)
- ① 令和6年度県中学校長会研究協議会本吉地区大会について
- ② 気仙沼市の週末合同部活動
- (6) 第3回全体研修会 10月20日(木) 中止
- (7) 第4回全体研修会 12月8日(金)
- ① 学校部活動の地域移行
- ② 本吉地方小・中学校長会合同研修会
- (8) 第5回全体研修会 2月20日(火)
- ① 研究発表
- ② 次年度計画の確認
- 3 小・中学校長会合同役員会
- (1) 第1回合同役員会 4月14日(金)
- (2) 第2回合同役員会 12月8日(金)
- (3) 第3回合同役員会 2月20日(火)
- (4) 第4回合同役員会 3月21日(木)
- 4 小・中学校長会合同研修会 2月13日(火)

- (1) 研究発表及び研究協議
- ・小学校長会研修部(教育課程委員会)より
 - ・中学校研究部より
- 発表者: 藤山篤(津谷中学校)
- 「自ら学び, 考え, 表現できる生徒の育成」～生徒に委ね支える授業づくりを通して～
- 5 中・高・特支学校連絡協議会
- (1) 第1回研修会 7月6日(木)
- (2) 第2回研修会 11月10日(金)
- 6 各種研修会・研究大会での発表等
- (1) 第73回東北地区中学校長研究協議会福島県大会(6月30日)第2分科会
- ・司会者 宮崎 明雄(新月中)
 - ・発表者 亀谷 寿之(鹿折中)
- 「自らの生き方を主体的に探究する力を高める道德教育の推進」
- (2) 宮城県小中合同理事会・研修会(8月1日)
- ・発表者 尾形 浩明(条南中)
- 「統合時における学校経営」
- (3) 第41回宮城県中学校長会研究協議会北部大会(10月13日)
- ・司会者及び発表者
- 亀谷 寿之(鹿折中)
- 宮崎 明雄(新月中)
- 「自らの生き方を主体的に探究する力を高める道德教育の推進」
- ・記録者 一丸 孝博(階上中)
- (4) 全日本中学校長会研究協議会大分大会(10月25日～26日)
- ・参加者 2名

VI おわりに

コロナ禍以前の学校教育が戻りつつある。全てを元に戻すもの, 働き改革のエッセンスを加え, 精選やコンパクト化しながら充実したものにすもの, そのような切り盛りをはじめ, 今後も一層校長及び校長会としてのマネジメント力が問われるところである。

次年度の県中学校長会研究協議会本吉大会で皆さんをお待ちしております。

東部地区校長会

会長 杉山 孝一



I 活動方針

新型コロナウイルス感染症の扱いが本年度5月に5類に移行したことに伴い、様々な活動や催しが「4年ぶり」という合言葉とともに展開されてきている。

しかし、すべてがコロナ以前の形態に戻ることはなく、コロナ禍で経験してきた教育活動や業務のスリム化やデジタル化等の工夫改善を織り交ぜながら各校では手探り状態で実施している。

一方、部活動の地域移行は多くの課題を抱えながらも、各地域の実情を鑑みながら進めていかなければならない現状と言える。

加えて、学校における働き方改革も待ったなしの状況である。

そうした様々な課題が重複する中、校長同士が意見を交換し、情報を共有することの重要性は、増すばかりである。

当地区校長会（31校）は、会議や研修会を充実させることはもちろんのこと、それぞれ抱える課題に即時対処するため、互いの情報交換を密にするという観点に重きを置きながら、地区内中学校教育の一層の充実・発展を図ることを目指したい。

II 活動の重点

- 1 東部地区中学校長会の組織と活動の充実
- 2 東日本大震災の復興に向けた教育の正常化
- 3 教育課程の適正な管理
- 4 生徒指導の充実と不登校対策の強化
- 5 志教育の推進と進路指導の充実
- 6 へき地教育及び特別支援教育の振興
- 7 教職員の定数・待遇改善に向けての努力
- 8 小学校・高等学校との連携
- 9 家庭・地域・関係諸機関との連携
- 10 中体連の適正な運用と環境の整備及び部活動の地域移行等についての情報共有
- 11 新型コロナ5類移行における望ましい教育活動の展開及び情報交換
- 12 教職員の望ましい働き方改革の実践

III 組織と運営

本会は、石巻市、登米市、東松島市、女川町の三市一町の31校の中学校で組織され、役員については会則により以下のとおりである。

会長	杉山 孝一（住吉中）
副会長	及川 幸男（佐沼中）
副会長	山内 芳明（石巻中）
幹事（石巻市）	平塚真一郎（青葉中）
幹事（登米市）	佐々木貴子（東和中）
幹事（東松島市）	平塚 輝（矢本一中）
幹事（女川町）	熊谷 雅幸（女川中）
総務部長	黒沼 俊郎（矢本二中）
研究部長	千葉 純子（登米中）
行財政部長	高橋 禎毅（河南西中）
情報部長	阿部 勇志（渡波中）
指導部長	佐藤 修二（稲井中）
会計	川村 瑞隆（万石浦中）
会計	富士原昭裕（中田中）
中体連（石巻地区）	千葉 正人（蛇田中）
中体連（登米市）	長倉 清敬（豊里小中）
監事	佐藤 智哉（米山中）
監事	及川 敦（石越中）

IV 活動の概要

- 1 総会 4月14日（金）会場 石巻合同庁舎
 - (1) 協議及び報告
 - ・会則の承認
 - ・事業計画、予算の承認
 - (2) 役員承認と専門部員の確認
- 2 定例会 会場 石巻合同庁舎
 - (1) 第1回 4月14日（金）
 - ・専門部顔合わせと打合せ
 - ・情報交換（地区ごと）
 - (2) 第2回 9月5日（火）
 - ・県校長会より
 - ・各専門部より
 - ・情報交換
 - (3) 第3回 2月5日（月）
 - ・県校長会より
 - ・各専門部より
 - ・情報交換
- 3 役員会 会場 石巻市桃生公民館
 - (1) 第1回 4月11日（火）
 - ・役員案確認
 - ・総会の内容について
 - (2) 第2回 6月8日（木）

- ・県校長会より報告と確認
- ・各専門部より
- ・研修「5月8日以降の教育活動」
- (3) 第3回 7月28日(金)
 - ・小中合同研修会, 第2回定例会検討
 - ・研修「仙台市のいじめ対応」
講師: 石巻市立稲井中 佐藤 修二校長
- (4) 第4回 12月1日(金)
 - ・第3回定例会, 情報交換会について
 - ・令和6年度の事業について
- (5) 第5回 2月16日(金)
 - ・令和5年度事業の反省・会計報告
 - ・令和6年度事業計画
- 4 東部地区小中合同研修会
 - (1) 9月5日(火) 会場 石巻合同庁舎
演題: 「石巻市の教育について」
講師: 石巻市教育委員会
教育長 宍戸 健悦 様

V 専門部の活動

- 1 総務部 部長 黒沼 俊郎(矢本二中)
 - 【活動内容】
 - (1) 総会・定例会の会場準備, 資料作成
 - (2) 各専門部との連絡調整
 - (3) 地区小学校事務局との連絡調整
 - (4) 関係機関との連絡調整
- 2 研究部 部長 千葉 純子(登米中)
副部長 阿部 一彦(北上中)
(登米地区, 石巻地区合同研究)
 - 【研究題】
「よりよく生きようとする意思や能力を育む
道徳教育の充実～命を大切にすることを育む
道徳教育の推進～」
 - 【活動内容】(研究部活動報告同文)
 - (1) 実態調査の分析・考察と原稿役割分担
 - (2) 研究報告の作成
- 3 行財政部 部長 高橋 禎毅(河南西中)
 - 【活動内容】
 - (1) 人事等に関するアンケート調査依頼
 - (2) アンケート調査ファイルの配布・回収
 - (3) まとめ冊子配付
- 4 情報部 部長 阿部 勇志(渡波中)
 - 【活動内容】
 - (1) 「会報」, 「紀要」に係る原稿依頼及び校正
 - (2) 全日中の冊子『中学校』の中のタイトル

- 「写真で残す昭和～平成の中学校」に掲載するための写真の提供依頼
- 5 指導部 部長 佐藤 修二(稲井中)
副部長 菅原 栄夫(南方中)

【活動内容】

- (1) 生徒指導に関する諸問題の調査研究
- (2) 関係諸機関との行動連携の強化
- (3) 学校間の連携と情報交換
- (4) 特別支援教育の現状と課題についての研究
- (5) 教育課題の調査研究
「中学校運動部活動に関する調査」を実施

VI 大会参加・発表

- 1 東北地区中学校長会研究協議会福島大会
6月30日(金) 会津若松ワシントンホテル
オンライン全員参加
- 2 宮城県中学校長会理事会・研修会
10月3日(火) 仙台ガーデンパレス
発表: 山内 芳明(石巻中)
内容: 「学校経営の実践事例」
- 3 宮城県中学校長会研究協議会北部大会
10月13日(金) 栗原文化会館
全員参加
- 4 全日本中学校長会研究協議会大分大会
10月25日(水)～27日(金) 別府市
5名参加

VII おわりに

新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に移行したことにより, 昨年度よりも対面での会議や研修会が増加した。リモート開催の利便性等は認めつつも, やはり直に顔を合わすことで, 様々な情報交換ができ, 貴重な研修の機会となることを改めて認識できた。

また, 4年ぶり?での役員会そして会員全員での懇親会も実現することができ, 会員相互の人間関係を深めることもできた。

それぞれの校長はこれまで様々な経験や研修を積んできている。互いに顔見知りとなり親交が深まることで, そうした貴重な情報が共有され自校の教育に還元できることが多いはずである。これからもこうした取組を継続させながら明るく楽しい校長会を目指したい。

各地区の研究報告

令和5年度 研究主題

人材育成・資質向上，働き方改革の推進

大河原地区

I はじめに

令和3年度に完全実施となった学習指導要領の総則「改訂の経緯」では，我が国の学校教育が大切にしてきたものの普遍性を示した上で「教師の世代交代が進むと同時に，学校内における教師の世代間のバランスが変化し，教育に関わる様々な経験や知見をどのように継承していくか」という課題が示されている。

また，文部科学省は，教師の資質・能力の向上に向けて「教師のこれまでの働き方を見直し，自らの授業を磨くとともに，その人間性や創造性を高め，子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として」学校における働き方改革の重要性を示している。

そこで，今回の研究では，地区中学校の「人材育成・資質向上」「働き方改革の推進」を切り口とし，成果と課題を実践事例から探り，学校経営に生かしていくために本主題を設定した。

II 研究の概要

1 研究期間

令和3年度から令和5年度までの3年間

2 研究対象

大河原地区中学校21校（令和3，5年度）

大河原地区中学校20校（令和4年度）

3 研究内容

- (1) 各校の「人材育成・資質向上，働き方改革の推進」に関する実態調査を行う。
- (2) 調査結果をもとに，課題を集約するとともに，参考となる取組を共有し，各校の実践に生かす。
- (3) 各校の実践事例及び成果と課題を集約し，実践事例集を作成する。
- (4) 実践事例発表会を開催し，学校経営に生かす。

4 研究計画

- (1) 1年次（令和3年度）
 - ・研究の方向性の確認，研究主題・研究全体構想の決定
 - ・「人材育成・資質向上」「働き方改革の推進」に係る実態調査①
- (2) 2年次（令和4年度）

- ・実践事例集の作成
 - ・「人材育成・資質向上」「働き方改革の推進」に係る実態調査②
 - ・実践事例発表会の開催
- (3) 3年次（令和5年度）
 - ・県中学校長会研究協議会での発表
 - ・実践事例発表会の開催
 - ・「人材育成・資質向上」「働き方改革の推進」に係る実態調査③
 - ・次年度研究の方向性の提案

III 研究の実践

1 「人材育成・資質向上」「働き方改革の推進」に係るアンケート結果

- (1) 各校における「人材育成・資質向上」「働き方改革の推進」の実態や課題について調査することで，より効果的な推進の在り方を探る。
- (2) 調査対象・時期
地区中学校21校 令和3年10月実施
地区中学校20校 令和4年10月実施
地区中学校21校 令和5年10月実施
- (3) 調査結果
各問について＜A：よい B：ややよい C：やや悪い D：悪い＞の4段階評価を行った。また「効果的な取組」「課題」については自由記述とした。

【問1 教員の「人材育成・資質向上」の状況】

	よい	ややよい	やや悪い	悪い
R3	4.8%	71.4%	23.8%	0.0%
R4	5.0%	90.0%	5.0%	0.0%
R5	10.0%	90.0%	0.0%	0.0%

R5の自由記述から

【効果的な取組】

- ・「情報の共有」，「智慧の共有」，「感情の共有」の3本柱をもとに，風通しの良い職場づくりに取り組んでいる。仕事の手を止め，職員と会話をすることを率先して行い，褒め認めること，さらに持ち味を共有させる仕掛けを行い，職員の学びを深めている。
- ・校務分掌の主任を中堅層の教員に任せたこと

が、ミドルリーダーの育成・資質の向上につながっている。

- ・職員会議等の機会に、全職員がミニ研修会の担当として、それぞれの個性を生かしたテーマで話題提供する場を設定している。
- ・一昨年は、学年主任や4年部教員はその職を初めて経験するものがほとんどだったが、学年主任部会や4学年部会等で校務について先輩教員からの助言や、情報交換を積極的に行うことで中堅職員の力量がアップしてきた。また、これらの教員の指導により、初任者層がほとんどである学級担任の指導力も向上してきている。
- ・町の初任者層授業力向上研修会（学校を越えて校長が学校の初任者層（教職経験5年程度以内）の授業を参観し、指導することで初任者層の指導力向上を図っている。）を活用し、校内で指導案検討、授業づくりについての助言等を行い、若手の授業力向上を図っている。

【問2 教員の「働き方改革の推進」の状況】

	よい	ややよい	やや悪い	悪い
R 3	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%
R 4	0.0%	70.0%	30.0%	0.0%
R 5	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%

R 5の自由記述から

【効果的な取組】

- ・部活動は平日週3日、土日1日。2人顧問制とし、外部指導者を積極的に活用している。年間を通して午後5時完全下校としている
- ・保護者からの電話対応時間（7:30～18:00）を設定、たより等はメールを活用している。
- ・留守番電話を設置している。
- ・One Noteを用いた職員会議資料のペーパーレス化。GoogleチャットやLINEグループを用いた週報の確認や打合せ内容の連絡。
- ・通信票の「所見」を学年末の1回のみに変更し、夏休みと11月の三者面談を充実させている。
- ・町で来賓案内を縮小した。
- ・余剰時間を減らし、年度後半は週1日5時間授業の日を設定し、午後6時退庁の日としている。
- ・「計画年休ウィーク」を設けて、予め時間割を設定し休みやすくしている。
- ・長期休業中に授業日を設け、4・5・9月に限り5時間授業の午後5時下校とした。
- ・4月～7月における週2回の5時間授業の設定（7月下旬に登校日を設定）

【課題】

- ・休日の部活動地域移行が進んでいない。

- ・部活動の活動時間を確保するため、毎日の下校時間が午後6時になっている。行事等の準備の際も同様で、勤務時間内での計画を立てる習慣がまだ定着していない。
- ・業務量削減を目指した様々な方策を行っているが、在校時間の縮減が数字として表れてこない。
- ・育休等の代替が配置されない現状で、教員の業務削減は困難である。
- ・生徒の完全下校まで教員は帰ることができない。教材研究に加え、不登校生徒への対応が下校後になるため、毎日遅くまで教員が残っており、働き方改革には程遠い。

【問3 「働き方改革について、地域や保護者への説明」についての状況（R5新設）】

- 学校だよりを通じて啓発を図るとともに、PTA役員会等で校長から理解を促している。
- 下校時間の変更について「学校の教育をより良くするための働き方改革の一つ」であることを校長から全校集会で生徒へ、学年PTAで保護者に説明した。
- 4月のPTA総会でスポーツ庁及び文化庁や県教委から出されている学校部活動と地域クラブ等のガイドラインについて、校長が保護者に説明し、理解と協力を求めた。
- PTA会長から総会で「働き方改革に御協力ください。」と話していただいた。
- PTA総会で世の中の報道などに触れて簡潔に話した程度である。今後は学校としての方向性や具体的な取組について丁寧に説明する必要がある。

2 実践事例（R4作成実践事例集から）

〈「人材育成・資質向上」の取組〉

K中学校の実践事例

(1) 校務分掌の工夫による取組

小規模校のため一人で校務分掌を担当する場面が多い。そのため前年度踏襲や自分の経験のみに頼った企画を提案する場面が多くなってしまっていた。そこで、教務や生徒指導主事、研究主任、安全主幹に副教務、副生徒指導主事、副研究主任、防災主任を置き、チームで企画・運営を行う環境を整えた。チームで企画・運営することが職能を高めることにつながっていると考えている。一人では気付けないことや質問できないことをチームで対応することで解決している。これは、小規模校における人材育成・資質向上として効果的であると考えられる。

例えば引渡訓練は、これまで新型コロナウイルス感染症予防のため過去2年間実施できな

かった。引渡訓練を再開するにあたり中学校区3校で一斉に実施するための意義について安全主幹と防災主任が共通理解し、これまでの経験や研修で学んだ内容を取り入れ立案した。

校長は、安全主幹から計画について説明を受け疑問点を返す。その際、安全主幹は防災主任と共に解決策を示す。先進校の情報も取り入れドライブスルー型の引渡訓練とした。この取組では状況把握、課題の解決、実施方法の周知、実施、実施後のグーグルフォームを活用した。チームとして組織的に実施する環境をつくることで人材育成・資質向上につながった。

(2) 生徒理解のための定例会を通じた取組

本校では、不登校対応が課題となっている。これまで学級担任が該当生徒や保護者の対応に当たり、支援の手立てや短期及び長期の目標を立て見通しを持った指導ができていなかった。また、その経験を全教職員で共有することがなかった。そこでチーム学校としてSCをコンサルタントとした不登校対策委員会を組織し心理面からのアドバイスをもらいながら組織で不登校生徒への支援を行うこととした。SCのコンサルテーションや経験の豊かな同僚との話し合いを通して指導・支援の視点やチーム学校の在り方について理解し教職員の人材育成・資質向上につながっている。また、生徒指導主事の職能向上につながっている。

M中学校の実践事例

(1) 職員会議での取組

校長指示・伝達の中で、「今月の研修」という項目を設定し、その時期に見合った事柄や事例、法規等をクイズ形式で提示し、教職員に考えさせている。例えば「決裁」という言葉を意識して使うようになるなど、その効果を感じることがある。

情報交換の中で、特別支援教育コーディネーターが、特別支援教育に関する基本的な事柄や事例を紹介している。特別支援学級のことだけでなく、特別支援教育全般について理解することができるようになってきている。

同じく情報交換の中で、学び支援教室（ほっとルーム）専任教員が、学び支援に関する情報を提示したり、自分が研修で学んできたことを伝達したりしている。不登校生徒の自立に向けた多様な支援を考える機会となっている。

(2) 校内研修での取組

校内研究の一環として、職員会議の終わりに「5分間プレゼンテーション」という時間を設定し、毎回1教科に絞って特色ある取組等を教科担任が紹介している。9教科と特別支援教育

で年10回行っている。この時間はよく感嘆の声が聞こえたり、歓声が上がったりする。専門性を生かした視点でプレゼンテーションを行うため、他の職員は、その効果を考えたり、自分の教科でも応用できることはないかを考える良い機会となっている。

〈「働き方改革の推進」の取組〉

S中学校の実践事例

○新たな教育課程の開発

ア 令和4年度の授業と部活動の具体

4月～9月

- ・月・水・金曜日→5時間授業、放課後の部活動、午後5時完全下校
- ・火・木曜日→6時間授業、部活動以外の諸活動、午後5時完全下校

10月～3月

- ・月・水・金曜日→6時間授業、放課後の部活動、午後5時完全下校
- ・火・木曜日→6時間授業、部活動以外の諸活動、午後5時完全下校

イ 授業時数確保のため、長期休業日11日間を授業

ウ 成果

- ①メリハリのある放課後活動（学級活動、生徒会活動、部活動、その他）が実施できた。
- ②不登校生徒の放課後登校が充実した。
- ③教師側が行事や授業に対してきめ細やかな打合せができた。
- ④生徒の下校時刻が早まることにより、教師の校務処理時間にゆとりが生まれた。
- ⑤教師側のゆとりや打合せができることにより、悩みを抱える教師が減少していると言える。そのことが病休者を出さないことにつながっている。

エ 課題

自分の生活を自己管理しながら目標達成に向かうスキルが身につけている生徒は、時間を有効に使用し、学習や部活動の自己トレーニングに努力した。しかし、このスキルが欠けている生徒は、時間を有効に活用できずにテレビやゲームの時間が増加し、保護者の意見も今回の取組に否定的なものとなっていた。（自己管理能力の育成が最重要）

（参考）全国学力・学習状況調査〔生徒質問紙〕

月曜日から金曜日までの1日当たりのテレビゲーム時間（スマホ等も含む3時間以上の生徒割合）令和3年度38%→令和4年度16.5%に生活改善

T中学校の実践事例

(1) 職員会議の効率化

基本的に45分以内で終了することを原則とした。そのために、要点を整理して効率的に提案したり、質問・意見が全体に関わることなのか判断したり、職員の意識が変わった。会議時間の短縮は、個人の業務の時間の確保につながる。とともに、必要に応じて学年や分掌単位で自主的な確認の会話が増え、チームで仕事をする意識の醸成にもつながっている。

(2) 定例化していた各種打合せの吟味・廃止

例えば、週1回の学年主任者会は、参加者からの提案・連絡のニーズがなければ開催しないこととした。また、紙面やデータのやりとりで済む「〇〇部会」も開催しないこととした。打合せが必要かどうか考えることが、分掌リーダーの主体性の育成に役立っている。

T 中学校の実践事例

○計画年休を取り入れた実践

夏休み中の学校評価会議に働き方改革についての話合いの場を設定し、教職員からアイデアを出してもらった。話合いの材料として職員会議でいくつか事例を提示しておき、それらの事例を基に話し合った。話合いの結果、計画年休を実施することになり、現在も以下の取組を継続している。

計画年休：毎月はじめに月の行事予定表を閲覧し、その月で年休を取得したい日に氏名を記入する。教務が確認し該当日の授業等の調整を行う。また、午後に授業がなかったり、処理すべき仕事があったりする場合は、積極的に年休を取得するよう声掛けを行っている。

教職員全員で話し合う場を設定することで、「働き方改革」に対する意識が向上するとともに、教職員が安心して年休を取得できるようになったと感じる。昨年度に比べ、年休を取得する教職員が増え、帰宅時間も早くなってきている。

IV 成果と課題

1 成果

○「人材育成・資質向上」については、この3年間で肯定的な評価が約75%から100%となった。キーワードとして「ミドルリーダー」「OJT」「研修」等が挙げられたが、この研究を通して各校長が、効果的な取組を模索して、多様な実践が行われ、成果が得られたことが分かる。

○「働き方改革の推進」については、肯定的な評価が令和3年度は約57%だったが、令和5年度は約86%となった。各校の取組を大きく分類すると、①会議の効率化②部活動の負担軽減③校務支援システムやPC活用による業務調整の3

つに当てはまる。その他として、地教委による人材支援、電話受付時間の制限、計画年休、通信票の見直し、定時退庁日の設定、学年学級経営案の提出廃止なども挙げられる。働き方改革に係るアイデアを職場で話し合ったり、アンケートで意見を共有し合うことによって、教職員の意識向上につながっている。

○「働き方改革についての地域や保護者への説明」については、PTA総会及び役員会、学校運営協議会、生徒集会等で積極的に校長が説明している学校が多くあった。保護者や地域から理解を得られるよう、説明責任を果たすことが重要となってくる。

2 課題

○「人材育成・資質向上」については、「やや悪い」「悪い」は0%となった。コロナ禍を経験したことで、研修の在り方も大きな変化が見られた。大河原地区中教研では、教科部会、教科外部会の総会は各校の代表者1名が集まる形にした。中教研一斉研究会は一日開催から半日開催とし、小教研と合同で行うなどの取組も見られた。しかしながら、研修方法については、参集型あるいはオンライン等も含めて課題である。

○「働き方改革の推進」については、「やや悪い」が14%程度で、令和3年度から比べると大きく改善している。しかし、様々な取組は行っているが、それが、職員の意識改革や行動変容になかなか結びついていない現状も明らかとなった。この要因の一つに、授業の持ち時間数と教材研究の時間、校務分掌等の業務がそもそも勤務時間内に収まる量ではないことが挙げられる。そのような状況でも、校長としてできることを粛々と実践していくしかない。校長会での研修や学校間の情報交換を通して、より良い実践を広めていけるよう努めていきたい。

V おわりに

大河原地区の校長会として、実践に即した実効性のある研究を目指して、令和3年度から本研究をスタートさせた。初年度からの変容を調査するとともに、実践事例集を作成するなど3年間で大きな成果を得ることができた。

この研究を通して、大河原地区中学校長の学校経営の具体について共有できたことは貴重な財産となった。また、コロナ禍を通して各校が教育課程や業務の見直しを行ってきたことも、本研究の実践に即するという結果に結びついた。待たなしの教育課題が続くであろう未来に向けて、本研究が一つの道標としての役割を果たせたのであれば幸いである。

次世代の学校運営を担う人材の育成

～ 学校経営の実践例からの学びを通して ～

仙 台 地 区

1 研究主題について

情報化や少子高齢化，地球環境の課題等の急速な社会情勢の変化に加え，感染症の蔓延や大国の紛争による国際政治・社会情勢の影響を身近な生活に受けている昨今である。「AIの普及」や「Society5.0」という言葉と共に取り上げられる「予測が難しい将来」は，「紛争」や「分断」という人間本来の姿からくる予測不能なのではないかと感じる。未来に向かい，一人一人が主体的に社会に向き合う人材を育成する意味でも教育の果たす役割は大きいと考える。

(1) 今日の課題から

不登校やいじめへの対応，学力向上，働き方改革，部活動の地域移行等の課題が山積している中学校現場において，それに対応するための環境づくりが急務である。職員構成の二極化や教員志望者の減少により，課題に対応する体制づくりに苦慮することも推測される。これまで学校現場が培ってきた組織づくりや，全ての基盤となる生徒指導のノウハウのバトンを，誰にどのように引き継ぐべきか。これは学校経営を担う校長としての喫緊の課題である。これまでの定石では解決の糸口が見出せない環境に置かれていると考える。そこで，「人材の育成」に焦点を当て，直面する学校環境の中で，どのようにして人材を育成しながら学校経営の充実を図るかを探る。

(2) 昨年度の研究成果と課題から

教師の多忙化は管理職の職務遂行にも大きくのしかかり，日々の課題に対峙するための根拠，つまり法的根拠への理解や整理が十分でないと感じるところから課題認識が高まった。教頭や主任層との職務遂行の過程で，多忙化により法理解への機会の不足や，課題が多様化することによる未整理が要因であるのではないかと推測した。この研究を機会に様々な事象に対する法的な裏付けを示すことが改善の糸口となることに焦点を当てた。管内各校からの調査により，職員構成や課題をまとめることにより，「次世代の学校運営」に対す

る課題について把握し，学校諸課題に対する方策やその根拠となる法規とその運用を示すことができた。

これによって，指導・助言を行う校長にとっても法的根拠を再度確認し，学校づくりや課題解決の一助とすることができた。一方，課題が多岐にわたり，その根拠となる法規との関連性を十分に検証しながら研究を進めることには課題が残った。また，実態調査から各校の職員構成の二極化により生ずる課題についても明らかになった。そして，中間層が少ない中で，次世代の人材育成に対する手立てがなかなか見つからずに苦慮する実態も浮かび上がってきた。「校長による学校経営の創意工夫」の大切さは当然のこととして，不登校の背景にある家庭の課題，部活動の在り方の変化，育成すべき中間層の不在等，学校内だけではなくなかなか解決の糸口が見出せないという実態が浮かび上がってきた。

2 研究目標

「次世代の学校運営を担う人材の育成」

～学校経営の実践例からの学びを通して～

現在の学校が抱える課題は学校規模や地域性によっても違い，先達の実践例であっても置かれた状況が異なるため，類似したものを見つけ出すことが難しい。また，校長間の情報交換の機会には限りがある。そこで，実態調査を生かし，その取組について情報交換をすることにより，より自校にあった支援策策定の一助となればと考えた。

3 研究計画の概要と視点

年度	計 画
R 4	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査と調査結果の分析と考察 ・運営ハンドブックの作成と提示 ・次年度推進計画の作成
R 5	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の検討 ・学校の実態調査及び実践例の収集 ・実践例集「口伝」の作成と提示 ・次年度推進計画の作成

R 6	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査と結果の分析及び考察 ・学校運営に関する成果物の作成 ・県研究発表大会 ・研究のまとめと次年度研究計画検討
-----	---

研究の推進にあたり、実態調査は管理職である校長を対象として行う。勤務校の職員年齢構成をはじめ、「教員のライフステージとみやぎの教員に求められる資質能力」をもとに、校長の立場としての捉え、考え等について回答を求める。また、校長の異動により、学校に対する課題の捉えや分析、方策の策定は差異が生じるものと考え、継続した調査や分析を行うこととする。

4 今年度の取組

(1) 実践の概要

各校の実態調査

- 1) 職員年齢構成：職員全員の年齢構成分布と職名、学年主任等の分掌ごとの年齢構成
- 2) 職員構成の特徴・課題・解決の工夫
- 3) 校務分掌の特徴・課題・解決の工夫
- 4) 求められる教職員の資質能力と校長の捉え
- 5) 管理職に必要な資質能力と校長の捉え
- 6) 分掌主担当に必要な資質能力と校長の捉え
- 7) 校長自身の振り返り
- 8) 校長が望む管理職の資質能力
- 9) 校長が望む分掌主担当の資質能力
- 10) 校長からの提言やアドバイス

(2) 分析と考察

- 1) 職員年代構成：職員全員の年齢構成分布と職名、学年主任等主な分掌ごとの年齢構成

【分析】

- ・50代～60代が最も多く46%を占め、この年齢が多い傾向が続いている。
- ・校務分掌の構成年齢は主要分掌の若返りが顕著に見られる。今年度は、経験21年以上の主幹教諭、教務主任、学年主任については15%～26%前後の減少が見られる中、経験11年から20年層については、主幹教諭が13.2%、教務主任が20.5%、1学年主任が16.1%と著しい増加を示し、経験10年以下の主幹教諭や経験5年以下の教務主任・学年主任もいる。
- ・若返りの傾向は、研究主任、生徒指導主事等において顕著である。

【考察】

各段階の年齢構成のバランスに関しては、再任用制度が充実してきていることも踏まえて、経験21年以上の教員が多い傾向は今後も続くと思われ。この中で、各学校では試行錯誤しながらも様々な工夫をして学校経営を行っている。

校務分掌の構成年齢については、10年後を推察すると、現在5年以下の経験層からも管理職が輩出されることになる。この研究を通して共有した知恵は、次代の若い管理職に向け、口伝として残していくことがさらに理想的であると考え。

2) 職員構成の特徴・課題・解決の工夫

【分析】

- ・年齢構成のバランスは一様でない。
- ・職員の年齢構成、若手やリーダー教員の育成、休職・病休者の対応等の課題を抱えている。他にも、「バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実」「教員個人の力量への依存度が高まり」「校内研修の時間の確保」等の課題が見られる。
- ・実情に合わせ、工夫している。

【考察】

職員構成の特徴から見えてくる課題は、「年齢構成・性別のアンバランスがもたらす若手教員の育成の課題」と「増加する休職・病休者がもたらす人材(人手)不足」の2点に集約されると考える。

3) 校務分掌についての分析・考察

【分析】

- ・「バランスが良い」「人材不足」「人事異動による弊害」「分掌の偏り」「リーダー・力量不足」「次世代育成」「年齢構成の偏り」との回答が多かった。
- ・「分掌の偏り・在り方」と「リーダー・力量不足」を課題として捉える学校が多かった。
- ・工夫として、「若い教員に主任を任せる。」「ミドルリーダーの育成」など、「人材育成」の内容についての回答が多かった。

【考察】

「バランスがよい」と特徴と捉えつつも課題が潜在していることがうかがえる。校長として校内人事を教員の強みを生かし行っているが、その後の課題に苦慮している場合が多い。学校経営上、校務分掌をバランスよく配置することが、よい結果に繋がるとは言えず、新たな課題が浮き彫りになるケースが多い。校長としては、力のあるベテ

ラン教員に業務を集中させがちであるが、人材育成を考えたときには非常に悩ましい。

課題については「分掌の偏り・在り方」「リーダー・力量不足」の2点に集約できた。教員間のOJTが十分でない、教員をじっくりと育てるゆとり、気概が昨今衰退してきていると推察される。働き方改革の中で、教員間の技術の伝承が一層大切な時代であると実感する。

1つの分掌をペアで担当させ「人材育成」に力を注ぐ工夫をしている学校もある。バランスがよく、分掌の在り方にも問題なく、リーダーの力量が育っている校務分掌とするためには、「若手教員やミドルリーダーの育成」にあたるのが校長にとって、非常に大切な仕事となっていると考える。

4) 求められる教職員の資質能力と校長の捉え

【分析】

・「たくましく豊かな人間性」「子供理解」「教育への情熱」「授業力」「生徒指導力」と続く。

【考察】

求めているのは、方法論や技術より子供に関わる際の人間性や意識であることが分かる。数値として計れない力を日々の教育活動を通して、いかにすると教職員に身に付けてもらえるか。これが、管理職が創意工夫していかなければならない研修の内容であり、在り方だと考える。これらの知恵も校長同士で交流できればと考える。

5) 管理職として必要な資質能力が身に付いているか

【分析】

・あまり身に付いていない項目として、「生徒指導力」が50%を占め最も多く、「学校を支える力」が33%と続いた。

【考察】

まずは、日々の教育で生かされるべき「生徒指導力」が身に付いていないと半数の学校が回答し深刻である。「学校を支える力」は、捉え方が幅広く、イメージできにくい言葉にして取り上げないと意識することが難しいと推察される。特に若手教員は、目の前の仕事に追われ意識化が困難だと考える。また、力が身に付いていない要因については若手を育成するOJTができていない、生徒指導の変化に対応できない、経験が不足なども挙げられる。

6) 自校の教頭（副校長）の年代

【分析】

・40代後半から50代前半で6割を占める。

【考察】

管理職の若返りが始まっていると考えられる。

7) 管理職（教頭）に必要な資質能力と校長の捉え

【分析】

・「学校のリーダーとしての基本的な素養」36%、「組織管理運営能力」27%、「人材育成能力」15%、「外部連携能力」13%、「学校経営能力」9%となった。

【考察】

「基本的な素養」が1番となった理由は、教頭（副校長）には、学校の要として職員をまとめ、校長の意を体して、学校のあるべき姿を見据えながらリードしてほしいという校長の願いが込められていると考える。教頭も管理職であり、教頭の助言・協力は必要であるが、学校経営をしているのは校長であり、組織を管理運営するのも、自分なのだという校長の責任感の表れがこの結果につながっていると考えられる。

8) 分掌主担当に必要な資質能力と校長の捉え

【分析】

・「学校のリーダーとしての基本的な素養」46%であった。以下、「人材育成能力」20%、「組織管理運営能力」16%、「外部連携能力」12%と続く。

【考察】

「学校のリーダーとしての基本的な素養」が「教頭に必要な能力」に比べ10%アップしている理由については、分掌主担当には、今後の管理職候補として校長が期待する部分が大きいことと、最前線に立つパートリーダーとして、学校を背負うリーダーとしての素養を身に付けてほしいという思いからだと推察する。「人材育成能力」も教頭に比べ、5%上昇している。その理由は、年齢層のバランスとしてベテランと若手が二極化する学校が多い中で、最も若手の相談に乗りやすい分掌主担当には、人材育成の期待がかかることも当然であるかと考える。「組織管理運営能力」が教頭に比べ11%ダウンしていることに関しては、小組織のリーダーとしての管理運営者としての期待はあるものの、全体を見ながら学校を動かしていく教

頭ほどの組織管理運営能力までは求めていないものと推測できる。

- 9) 校長自身が教頭時代、または主幹教諭（または教務主任）のときにさらに身に付けておくよかったと感じること

【分析】

- ・「組織管理運営能力」30%、「学校経営能力」26%、「学校のリーダーとしての基本的な素養」20%、「人材育成能力」17%と続く。

【考察】

校長が教頭（副校長）に求める資質能力や分掌主担当に求める資質能力と異なる結果になったことに興味もてる。

本研究主題を考えた時に、教頭、分掌主任に求める資質能力と本項の結果との比較が最も有効である。校長が、教頭や分掌主担当に求める資質能力は、「学校のリーダーとしての基本的な素養」が1番であった。一方、校長自身が過去を振り返って考えた時に、「その時代に身に付けておけばよかったと思える資質能力」については「学校経営能力」の割合が非常に高くなる。私たち現校長が分掌主任、教頭を任されていたとき、当時の校長が、我々に一番求めていた資質能力も「学校のリーダーとしての基本的な素養」であったと考えられる。

校長となり、初めて学校経営の責務を目の当たりにしたとき、その時に「学校経営力」の必要性を感じるものがアンケート結果から見えてきた。

教頭・分掌主任時代は、仕事が山積する中、それらを処理すること、また、リーダーとしての責務を果たすことに精一杯であった。そして学校経営の最高責任者である校長の存在の下で、どう判断し、どう学校経営を行えば良いのかが不明瞭のまま、過ごしてきたように感じられる。

この結果を踏まえ、だからこそ、校長は、教頭・分掌主任に対して「学校経営能力」を育てることを意識したアドバイスを送るべきなのではないだろうか考える。

5 成果と課題

成果と課題として次のことが明らかになった。

【成果】

- (1) 学校規模や地域性が異なる中で、学校運営の方向性や解決への糸口となるような情報を集めることができた。

- (2) 実態や実践例、校長の捉えや振り返りなどを収集し、有益な情報を共有することができた。
(3) すべての学校を対象としたことにより、実像が明らかになった。
(4) まとめや類型化を進める中で焦点化を図り、分析や考察を深化させることができた。

【課題】

- (1) 2年間の研究の成果を、学校運営への活用はどう役立てていくか。
(2) 自由記述の部分は、書き手の意図と読み手の意図に差が出る可能性もある。
(3) 毎年メンバーや年齢構成が異なるため「次世代」の定義が広くなり様々な捉えとなった。

6 次年度の研究（案）

- (1) アンケートを今年度と同時期に実施する。
(2) 各校や各校長が学校運営を担う人材育成のために工夫した経験例、実践例、具体例などを収集する。例えば、資質能力を身に付けさせる手立て、身に付けてほしいことなど。
(3) 校長自身が、リーダーの素養を身に付けるために有効であったと考える経験について、とりまとめる。（次世代のリーダーへのメッセージとして・ワークシート等も含む）

R 5 仙台管内中学校長会研修部会

- ◎高橋睦子（名取一中） ○白鳥 修（山元中）
○齋藤守彦（玉川中） 三浦 敏（七浜中）
阿部欽一（東豊中） 佐藤秋生（玉浦中）
星 淳（富谷二中） 大泉真澄（宮床中）

「多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成」

～ 教職員集団の総合力を高める校長の組織マネジメントの在り方 ～

北部地区

1 研究の趣旨

今日、人工知能（AI）やビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。同時に、「予測困難な時代」であり、新型コロナウイルス感染拡大等、一層先行き不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。新型コロナウイルス感染症の影響は広範で長期にわたるため、感染収束後の「ポストコロナ」の世界は、新たな世界、いわゆる「ニューノーマル」に移行していくことが求められている。

そのような中、令和3年1月中央教育審議会答申において「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～」が示された。その答申では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育の姿」が示され、同時にその姿が実現されるための「教職員の姿」や、「教職員の養成・採用・研修の在り方」が示されている。

多様化する課題の中で、答申に示されている「環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている」「子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている」「子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている」教師を教職員集団としての総合力を高めるマネジメントを通して、いかに育成するかを探るため、本主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 研究目標

本地区における教員の育成はどのようにあるべきか、より実践的で効果的なマネジメン

トの在り方を探り、学校経営の充実に資する。

(2) 研究計画

- ① 令和5年度（1年目）
 - ・ 研究主題決定
 - ・ 研究の方向性の確認及び計画立案
 - ・ 実態調査の実施①
 - ・ 調査結果の分析、考察
 - ・ 今年度のまとめと次年度の計画等
- ② 令和6年度（2年目）
 - ・ 実態調査の実施②
 - ・ 調査結果の分析、考察、検証
 - ・ 各校の状況や実践事例の集約
 - ・ 今年度のまとめと次年度の計画等
- ③ 令和7年度（3年目）
 - ・ 研究の成果と課題のまとめ
 - ・ 県大会での発表、役割分担や準備
 - ・ 次年度の研究に関する方向性の確認

3 研究の方法

教員の育成に関する実態調査及び結果分析を行い、宮城県北部地区26校の現状を明らかにして、今後の学校現場における教員の育成への提言を行い、学校経営の一助とする。

4 研究の実践

(1) 実態調査にあたって

- ① 校長が学校経営をする中で感じる、教員の伸ばしたい資質能力と教員自身が伸ばしたい資質能力に開きがあるかを知るため、校長及び教員へ同じ設問の調査を実施する。
- ② 校長が感じる学校教育課題とは何か、また、「教員育成」に関してどのようなことを課題と考えているか調査を実施する。

(2) 具体の調査項目と調査結果

- ① 校長以外の教員への調査

宮城県教育委員会では、「5つの教職経験段階」の区分に応じて、全ての教員に共通して求

められる基礎的・基本的な資質能力として「7つの資質能力」を示しています。この資質能力について後の質問にお答えください。

【質問1】あなたは「5つの教職経験段階」のうち、どの段階にあたりますか。

教職経験段階	回答308件
第0期（新規採用時）0年	6.5%
第I期（基礎形成期）1～5年目	22.7%
第II期（資質成長期）6～10年目	19.5%
第III期（資質充実期）11～20年目	13.3%
第IV期（深化発展期）21年目以上	38.0%

【質問2】あなたの年齢はどの年代ですか。

年 齢	回答308件
20代	22.7%
30代	23.4%
40代	17.5%
50代	29.5%
60代	6.9%

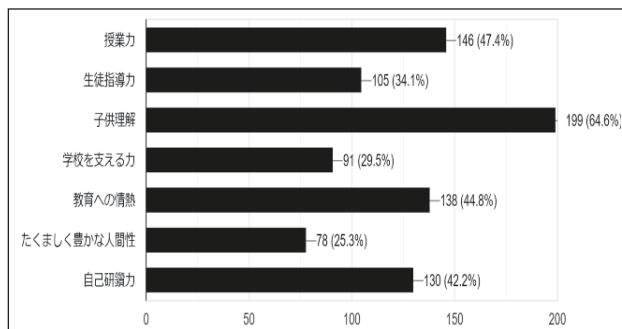
【質問3】あなたの職はどれですか。

職	回答308件
教 頭	4.5%
主 幹 教 諭	3.9%
教 諭	78.6%
養 護 教 諭	3.2%
栄 養 教 諭	0.7%
講 師	9.1%

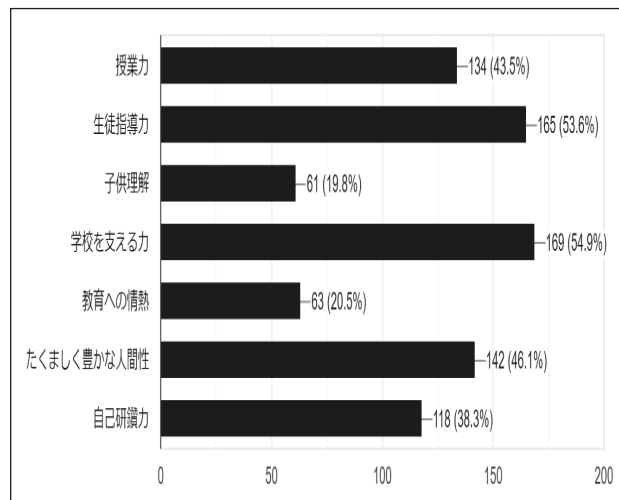
【質問4】あなたの校務分掌はどれですか。

校務分掌	回答308件
学 級 担 任	50.0%
副 担 任	13.6%
学 年 主 任	14.9%
そ の 他	21.4%

【質問5】「7つの資質能力」のうち、ご自身で比較的身に付いていると思われる資質能力を3つ選んでください。

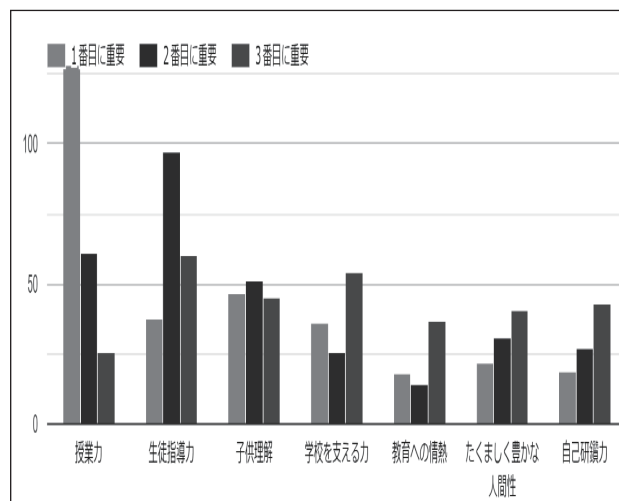


【質問6】「7つの資質能力」のうち、ご自身で十分身に付いていないと思われる資質能力を3つ選んでください。

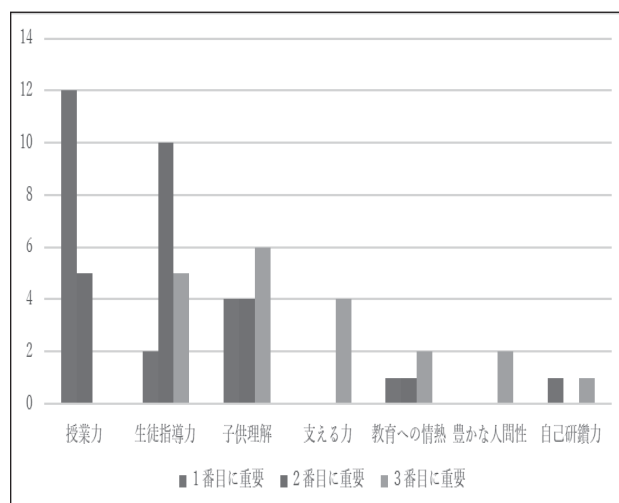


【質問7】「7つの資質能力」のうち、これからご自身が身に付ける必要があると思われる資質能力を順に3つ選んでください。

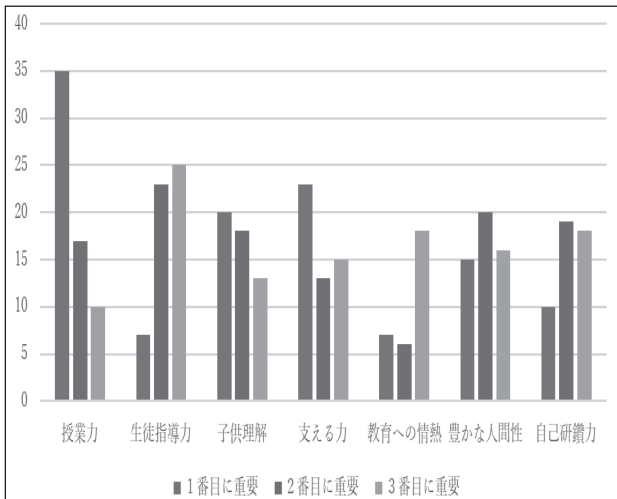
※全員の回答の集計



※第0期（新規採用時）0年

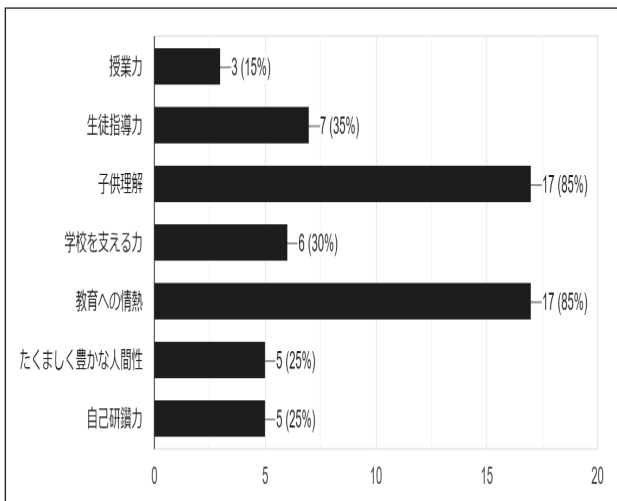


※第Ⅳ期（深化発展期）21年目以上

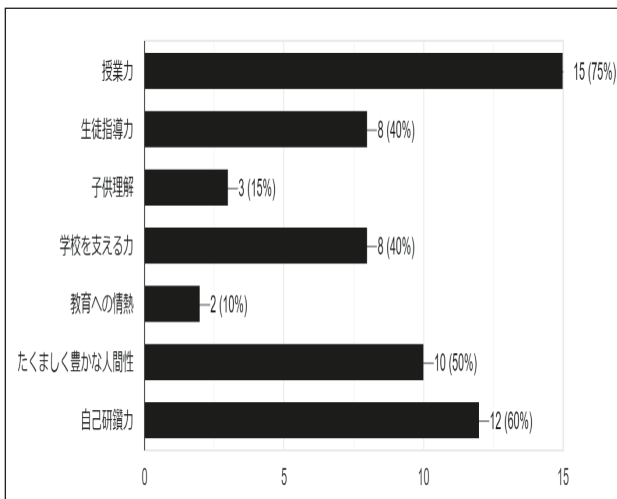


② 校長への調査（回答数20件）

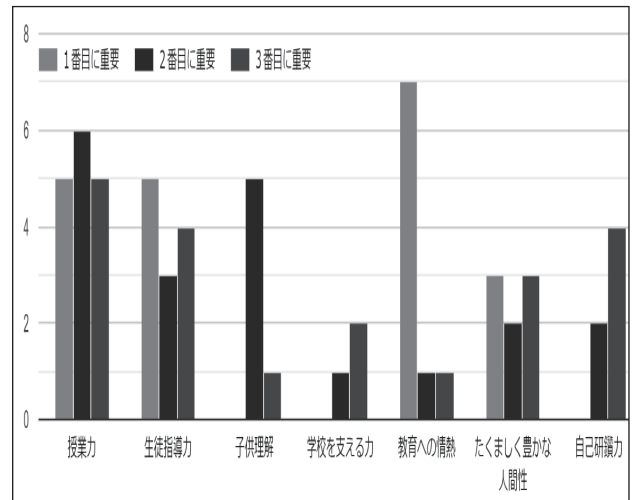
【質問1】「7つの資質能力」のうち、御校の職員の多くが比較的身に付いていると思われる資質能力を3つ選んでください。



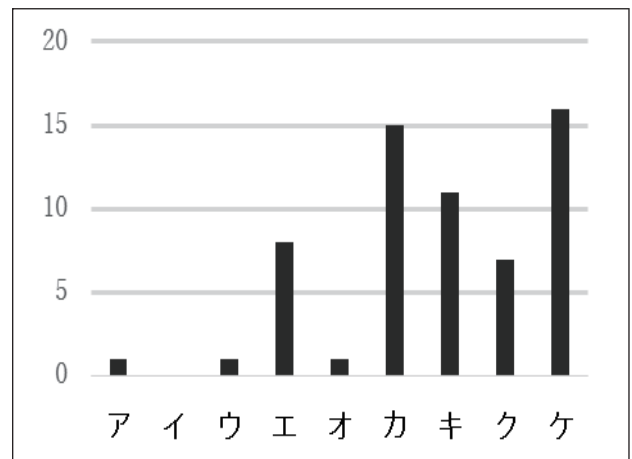
【質問2】「7つの資質能力」のうち、御校の職員の多くに、不足していると思われる資質能力を3つ選んでください。



【質問3】「7つの資質能力」のうち、多様化した学校教育課題を解決するために、特に身に付けさせたい資質能力を順に3つ選んでください。

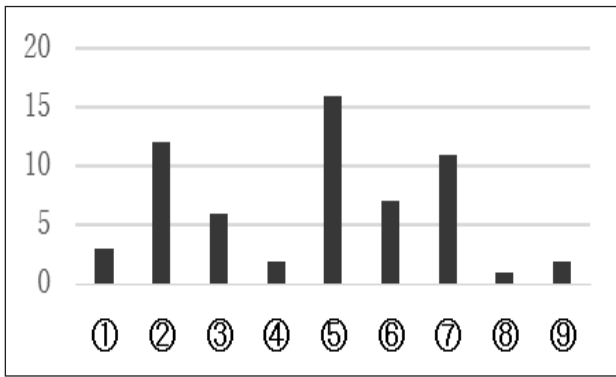


【質問4】「多様化した学校教育課題」として、特にどのようなことが課題だと感じていますか。次の項目から3つ選んでください。



- ア. 特別支援学級の生徒数の増加
- イ. 外国人生徒数の増加
- ウ. 貧困率や虐待等の問題の複雑化
- エ. いじめ・不登校生徒数の増加
- オ. 生徒数の減少
- カ. 教職員不足、働き方等
- キ. 保護者の価値観の多様化
- ク. 学力の二極化
- ケ. 配慮を要する生徒数の増加

【質問5】現在、初任層とベテラン層の二極化、定年延長、5年後10年後考えられる管理職の低年齢化等、様々な背景がある中、「教員の育成」に関する事で、「課題」と思われることにはどのようなことがありますか。次の項目から3つ選んでください。



- ①授業技術の伝達
- ②生徒指導技術の伝達
- ③常識的な言動の指導
- ④コンプライアンスの遵守
- ⑤主任やミドルリーダー層の育成
- ⑥初任層への指導
- ⑦ベテラン層のモチベーションの維持
- ⑧研修時間の確保
- ⑨ICTを使いこなす技術

【質問6】今後、多様化した学校教育課題に対応できる教員を育成するためには、校長としてどのような取組が必要だと考えていますか。または現在取り組んでいますか。

- 教育への情熱，次代を担う子どもたちの育成こそ教師の役目であるという熱い思いを持った教師の育成の場は、やはり学校現場である。教員間のつながり，助け合い，支え合う雰囲気づくり，人間関係づくりが全てである。（同様の意見4名）
- 研修ではなく，その場その場で一緒に考え支援する等，OJTで育成する。（同意見3名）
- 失敗させること。そしてフォローすること。（同様の意見3名）
- 学校運営に対する校長の考え，意図をきちんと伝える。（同意見3名）
- 教員一人一人の特性を理解して，得意な場面で力を発揮できる設定（同様の意見2名）
- 課題に対しての具体的な指示。
- 人との関わりやつながりを調整する力，多様な視点で物事を見ることや柔軟な対応ができる人間性の育成。
- これまでの経験ベースの指導では対応できない状況であることを踏まえ，拠り所となる理論的な知識を身に付けること。

- チームによる教科指導力の向上，同じく生徒指導への対応。
- 教職員の低年齢化が著しいが，思い切って主任等をやらせてみる。（職員構成上やらざるを得ないことを常々から意識させる。）

(3) 考察

校長，校長以外の教員ともに，「子供理解」については身に付いている資質能力と感じている。これは，教員が日常的に「生徒に寄り添う」ことができている結果なのではないかと推察する。一方，「授業力」については，校長以外の教員の半数は身に付いていると回答するものの，今後身に付ける必要があるとも回答し，校長も身に付けさせたいと考えている。令和の日本型教育で求められる授業スタイルの確立に向け，その必要性を感じている結果であると推察する。その中で，校長以外の教員において，身に付けたい資質能力を教職年数ごとに分析をすると，新規採用教員は「授業力」「生徒指導力」以外は回答が少ないのに対し，21年目以上になると，7つ全て大事であると感じるようになることも調査から見えた。校長への質問3において，多様な課題を解決するためには「教育への情熱」が一番に必要と回答した校長が多い。質問4においては，現在の学校教育課題は配慮の必要な生徒の増加と感じている。質問5における育成に関する課題としては「主任層やミドルリーダーの育成」が課題であるという回答が多かった。今回の調査結果を踏まえ，2年目の研究となる次年度は，校長の組織マネジメントの在り方を通して，教員育成の主題に迫っていきたい。

<研究部員>

- 若生 亮 （栗原市立栗原西中学校）
- 村上 卓 （栗原市立若柳中学校）
- 日野口 香 （大崎市立松山中学校）
- 高橋 理香 （大崎市立岩出山中学校）
- 三浦 美紀 （大崎市立田尻中学校）
- 野家 智昭 （涌谷町立涌谷中学校）
- 菅原 恵美 （色麻町立色麻学園）

「自らの生き方を主体的に探究する力を高める道德教育の推進」

本吉地区

I はじめに

気仙沼・本吉地区は、宮城県の北東部に位置している。海岸はリアス海岸となっており、東日本大震災での津波被害が大きかった地域である。震災後、学校教育は地域の復興や未来創造の担い手としての生徒の育成に力を注いできた。防災教育や志教育を中心とした担い手づくりに一定の成果は得られたものの、学力や不登校生徒の増加、自己有用感の育成等は、今なお課題となっている。

II 研究の概要

- 1 当地区における道德教育に関する意識と新学習指導要領への取組状況を把握し、課題を明確にする。
- 2 課題解決に向けた取組を提案し合い、各校での実践につなげる。
- 3 本主題に係る校長の役割と指導の在り方を探る。

III 研究の方法

【令和3年度】（令和3～5年度の3年計画）

- 1 研究の方向性と研究計画の立案
- 2 道德教育の実態把握と課題の整理
- 3 課題の共有と課題解決への取組の検討

【令和4年度】

- 1 各校の改善状況の調査と考察
成果と課題のまとめ
- 2 今後の道德教育の在り方の整理

【令和5年度】

- 1 道德教育の更なる充実に向けた取組の提案
- 2 各校の取組のまとめと事例提供と提言

IV 研究の実践

1 実態調査の実施

(1) 実施方法と調査内容（R3年10月実施）

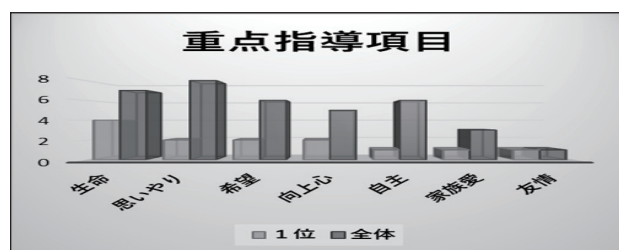
- ① 新学習指導要領に基づく道德教育の実践状況について実態を調査した。
- ② 調査の対象は地区内13校の校長と、勤続4年経過以上の教員の内、現在も学級担任を務めている教員とした。

③ 校長の調査内容は、「指導体制」、「研修」、「指導」、「校長のリーダーシップ」、「課題」とした。

④ 教員の調査内容は、「授業スタイル」、「生徒の変化」、「悩み」、「育てたい道德性」、「課題」とした。

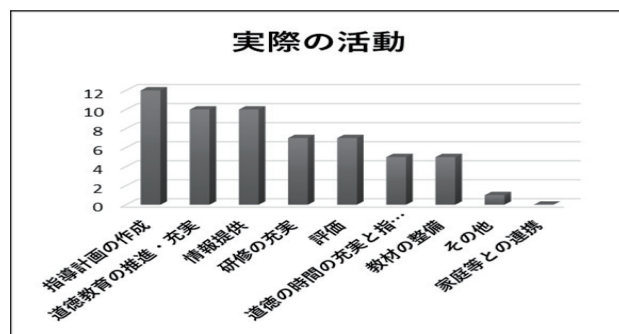
(2) 調査結果（校長用）

- ① 道德科の指導体制に関すること
ア 各校の重点指導項目



⇒生命の尊重を最優先とする回答が多い。

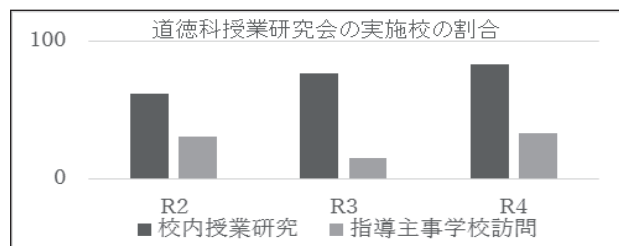
イ 道德教育推進教師の実際の活動



⇒家庭との連携の取組がほぼなかった

② 研修に関すること

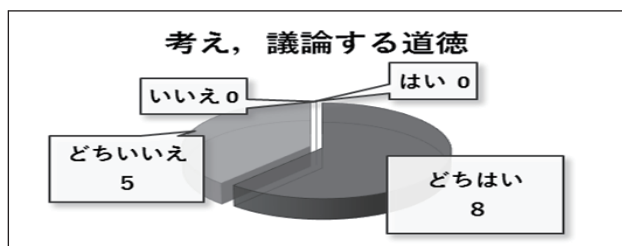
ア 道德科の授業研究会の実施状況



⇒ここ数年、校内における道德科の研究授業が半数以上の学校で行われている。

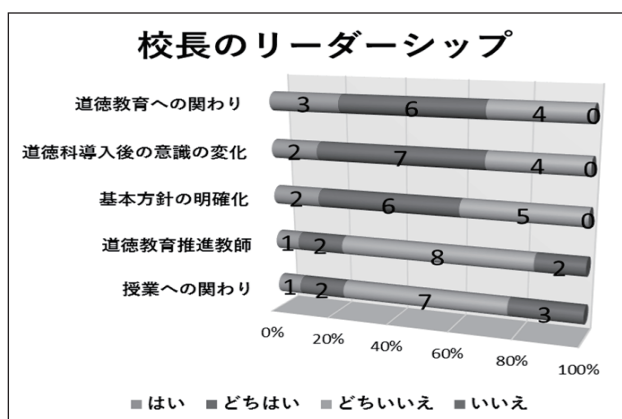
③ 指導に関すること

ア 「考え、議論する道徳」の実践状況



⇒「考え、議論する道徳」の実践は十分とはいえないと捉える校長が多い。

④ 校長のリーダーシップに関すること



⇒道徳教育推進教師への積極的な働き掛けができていない。

⇒授業づくりへ積極的な関わりはできていない。

⑤ 課題について

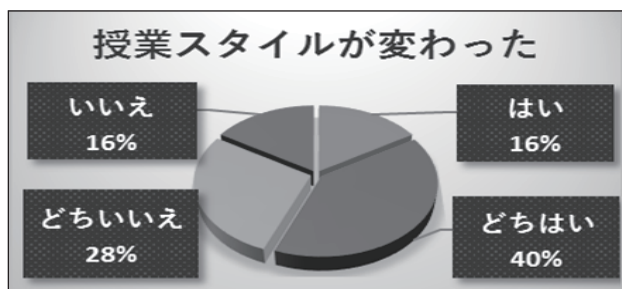
ア 研修機会を十分に設定できていないこと

イ 道徳教育推進教師による道徳教育の推進

ウ 学校の重点指導項目の指導の弱さ

(3) 調査結果〈教員用〉

① 授業スタイルの変化



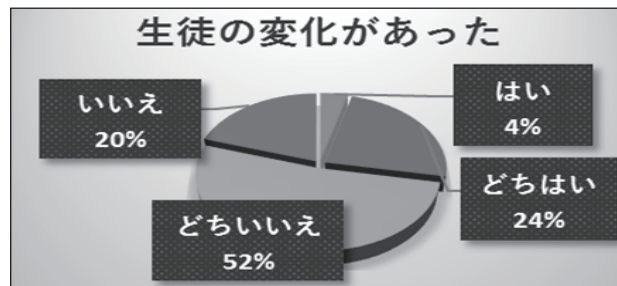
【変化させたこと】

ア 話合いの時間を多くした。

イ ペアやグループ学習を多くした。

ウ p4c を取り入れた。

② 生徒の変化



【変化してきたこと】

ア 他者の考えや意見を尊重する姿勢が高まってきた。

イ 考えを練る習慣がついてきた。

③ 指導上の悩み

ア 校内で教材研究の時間が確保できない。

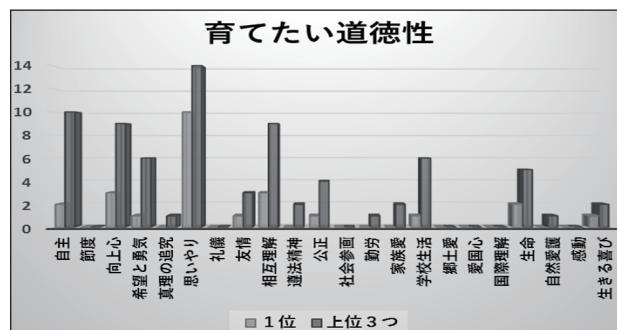
イ 発問の組み立て方（中心発問・補助発問等）が難しい。

ウ 評価の仕方（文章記述や発言の少ない生徒の見取り等）が難しい。

エ 授業展開が正しいのか自信がない。

オ 内容項目によっては生徒の考えを引き出しにくいものがある。

④ 生徒に育てたい道徳性



⇒最重要、上位3つの選択でも、「思いやり」がトップだった。次いで「自主」、「向上心」、「相互理解」などが重視されていた。

⑤ 課題について

ア 自分自身の授業力の向上が必要である。

イ 教材研究の時間の確保ができない。

ウ 研修の機会が十分でない。

(4) 調査結果を受けての課題設定

調査から、以下を本地区における道徳教育の課題として共有した。

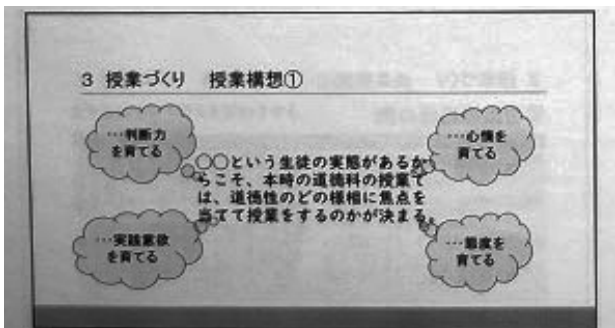
① 研修の充実

- ② 道徳科の教材研究への時間確保
- ③ 道徳教育推進教師の機能活性化
- ④ 教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進

2 令和4年度における課題への取組（改善状況の調査から）

(1) 研修の充実

- ① A校では、教員の不安感の解消とより良い指導のため、事前に学年内での指導過程検討会を持つようにした。
- ② B校では、道徳教育の研修会に参加した職員による「授業づくり」に重点を置いた伝講会を開くとともに、指導方法等の情報交換の場を持つよう確認した。



【伝講会と資料の一部】

(2) 道徳科の教材研究への時間確保

- ① C校では、月1回「5時間授業の日」として、5校時目終了で生徒を下校させ、教員の教材研究の時間を確保した。道徳科が行われる前日または前々日に設定している。
- ② D校では、職員の退勤予定時刻を出勤時に掲示する取組により、職員の時間管理に対する意識を高める試みをした。（カエルボード）



(3) 道徳教育推進教師の機能活性化

① E校では、道徳教育推進教師が初任層への師範授業の提供を行った。また、F校では、道徳教育推進教師が研究主任と連携し、道徳教育に関する研修の機会を設けた。

② G校では、職員会議において道徳教育推進教師から話題提供する時間を確保した。道徳教育への定期的・継続的な話題提供により、教員の道徳教育への理解が図られてきている。

(4) 教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進

① H校では、道徳教育を教育活動全体で行うためには、教師間での共通理解や連携が前提と捉え、年度初めの職員会議や研修会等で、その理解のための機会を確保した。

② I校では、学校行事や特別活動、教科指導で道徳的な内容項目を意識した指導がなされるよう、「別葉の年度毎の最適化」を道徳教育推進上の重点に掲げ、組織を生かして取り組んだ。同時に「考え、議論する道徳」のため教科内での議論の場を積極的に設定した。

③ J校では、評価の妥当性や信頼性を高めるため、生徒の個人内評価累積のための共通理解の場を設けている。特に、道徳科の指導時間内に文章記述や発言が少ない生徒を意識した評価累積を意図的に行うよう共通理解を図っている。

3 令和4年度取組の考察

令和4年度は、令和3年度に共有された課題について、改善のための取組を調査した。

共有されている課題と各校での令和4年度取組状況から、「校内での人材育成」、「時間の創出」、「職員による共通理解」の3つを校長としての道徳教育推進のための重点として捉えることにした。

(1) 校内での人材育成

人材育成は、校長としての重要な役割である。令和4年度の「研修の充実」についての調査から、道徳教育研修会参加者による伝講会の実施が、また、「道徳教育推進教師の機能活性化」からは道徳教育推進教

師による若手教員への師範授業提供の実施が報告された。これらの実践は令和3年度の教員アンケート結果の「校内で教材研究の時間が確保できない」や「自分自身の授業力の向上が必要である」を受け実施された。研修会参加者や道徳教育推進教師が核となって、道徳教育の充実を図る取組であり、人材の育成によって更に効果を高めていくことができると考える。



【初任層の授業者による授業研究会】

(2) 時間の創出

本地区でも以前から、ウィークデー1日の部活動なしの日の設定は行われていたが、この時間を道徳科の教材研究に充てることはあまりなく、教員アンケートの結果からも道徳科の教材研究は十分ではないことが明らかとなっていた。教材研究の時間の確保が課題となったが、令和4年度の取組の調査結果から、「5時間授業の日」の設定による時間確保の取組が見られた。この日の設定を道徳科の授業の前日または前々日にすることで、道徳科の教材研究が見られたとする学校もあった。今後は単なる時間の創出だけではなく、時間の使われ方を意識したマネジメントや、カエルボードの取組に見られるような時間管理の意識の醸成が必要である。

(3) 職員の共通理解

令和3年度の調査で、教員の道徳教育に関しての共通理解は十分ではないという回答が見られた。具体的には、校内の道徳教育重点事項に対する理解、別葉の認識や活用の仕方、個人内評価としての見取りや累積の仕方等である。これらを受け、令和4年度に、「別葉の年度毎の最適化」に取り

組んだ学校は、教員個人が指導の中で感じ、書き留めた事柄を学年内で共有する過程で更に検討を加える取組により、学年内の共通理解が図られてきている。また、「研修の充実」に取り組んだ学校は、研修を通し、職員の道徳教育における基礎的理解が図られてきた。さらに、学校における道徳教育の全体計画についての確認の場の設定により、校内の重点指導項目や別葉の活用の仕方についても共通理解を深めている学校もあった。校内研修の場が「職員の共通理解」を促す様子が見られている。

V 成果と課題

1 成果

令和4年度の取組により、研修の充実や教材研究の時間の確保、道徳教育推進教師の機能活性化、教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進等についての課題改善のための具体的な取組を共有することができた。またそこから、道徳教育を更に推進していくための校長の関わりとしての「人材育成」、「時間の創出」、「職員の共通理解」の視点を得られたことは成果となった。

2 課題

生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲、態度の更なる育成を、道徳科を要としながら教育活動全体を通じて行っていかなければならない。

校長として人材育成、時間、共通理解の視点を基に今年度の道徳教育への取組を充実させ、生き方を主体的に探究する力の一層の育成に取り組んでいきたい。

<研究部員>

宮崎 明雄	気仙沼市立新月中学校
亀谷 寿之	気仙沼市立鹿折中学校
一丸 孝博	気仙沼市立階上中学校
斎藤 博厚	気仙沼市立気仙沼中学校

よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実

～ 命を大切に作る心を育む道徳教育の推進 ～

東 部 地 区

I はじめに（主題設定の理由）

1 今日の課題から

「特別の教科 道徳」が教科化されて5年目を迎え、道徳の時間は発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」への転換が進められている。

現在、各校で実践が積み重ねられており、学校教育全体で教師が生徒一人一人の道徳的な成長を温かく見守り、よりよく生きようとする努力を認める見取りと評価の在り方等について模索している現状がある。そのため校長会として実態を把握しながら、道徳教育の具体的な姿を提唱することが必要であると考えた。

また、東日本大震災から12年が経過し、記憶の風化が取りざたされるようになり、改めて震災を教訓として「命」に向き合う必要性を強く感じている。

2 道徳教育の目標から

道徳教育の目標は、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことにある。

道徳教育が、各教育活動の特質に応じて意図的・計画的に推進され、相互に関連が図られるとともに、道徳科において、各教育活動における道徳教育で養われた道徳性が調和的に活かされることで、生徒の道徳性は一層豊かに養われる。

内容項目「生命の尊さ」については、「道徳科の内容全体に関わる項目」（中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」）と示されている。

また、震災で甚大な被害を受けた本地区として、震災と関連付けて「命を大切に作る心」を育む道徳教育を推進していくことは、本研究題の達成に資することになると考えた。

II 研究の内容（3／3年目）

1 研究の概要

震災で甚大な被害を受けた地域を中心に「生命の尊さ」を道徳教育の重点項目として位置づけ、震災の経験を貴重な教材として道徳教育の実践を行ってきた。しかし、現在、本地区に勤務する教員で、震災当時すでに学校に勤務していた教員は約半数以下（49.8%）まで減少している。そこで、震災から学んだ経験をもとに、本地区ならではの道徳教育を推進するため、本地区内中学校長にアンケート調査及び聞き取り調査を行った。その分析・考察を通して現状を把握し、今後の道徳教育の在り方について提言を行う。

2 アンケート調査の結果と考察

令和3年度より本地区内中学校長を対象に道徳教育の実態についてアンケート調査を行った。
(1) 道徳教育を充実させるために校長が果たすべき役割

上位3項目は「推進体制の確立」「目標の設定と推進」「教員研修会の実施」であり、3年間変わっていない。「教員研修会の実施」については、昨年度コロナ禍の影響があり教員研修会の計画が難しかったせいか減少傾向にあったが、今年度はその割合が増加している。改めて教員研修の必要性を感じていることが伺える。

	R3年度調査	R4年度調査	R5年度調査
教員研修会の実施	59.4%	43.8%	61.3%

(2) 学校教育全体を通じて道徳教育を推進するために教育課程編成において重視していること

上位3項目は「生徒の実態」「道徳科と日常の学校生活との関連」「学校教育目標の具現化・校長の願い」であり、3年間変わっていない。「道徳と特別活動の関連」の割合が年々増加している。改めて道徳科の授業と特別活動との関連が重要視されていることが伺

える。

	R3年度調査	R4年度調査	R5年度調査
道徳と特別活動の関連	15.6%	31.3%	35.5%

(3) 各校が位置付けた「重点内容項目」

重点内容項目については、上位3項目が「自主、自律、自由と責任」「思いやり、感謝」「より良い学校生活、集団行動の充実」であり3年間変わっていない。本研究で着目している「生命の尊さ」を重点項目にする割合は、3年連続で増加しており、震災に関連した教育活動についても、地域や生徒の実態に応じた実践が増えてきている。

	R3年度調査	R4年度調査	R5年度調査
生命の尊さ	31.3%	53.1%	54.8%

(4) 東日本大震災に関連させた道徳科の授業の実施状況

	R4年度調査	R5年度調査
行っている	22%	41.9%

「行っている」と回答した学校は41.9%であった。これは、昨年度の調査で「生命の尊さについて、大震災に関連させた授業」を行っていると回答した学校が22%であったのと比較すると増加している。具体的な内容としては、宮城県の防災教育副読本『未来への絆』や石巻市が独自で作成した石巻市防災教育副読本『未来へつなぐ』を活用した授業、校長が自身の体験を基に行っている「未来の命を守るための道徳講話」等が挙げられている。昨年度の調査では、震災で甚大な被害を受けた当地区において、震災そのものを道徳科の授業で扱うことの難しさが伺えたことを研究のまとめにおいて明らかにしているが、本研究の継続した取組と発信が、校長の意識に変化をもたらし、道徳科での授業実践につながっていることが考えられる。

(5) 道徳科以外での、東日本大震災に関連した授業や行事の実施状況

	R4年度調査	R5年度調査
行っている	78.1%	87.1%

「行っている」と回答した学校は87.1%で

あり、昨年度の調査より増加している。具体的な内容としては、県や市の防災教育副読本を活用しての防災学習や東日本大震災を想定しての避難訓練、「みやぎ鎮魂の日」の前後での校長講話や追悼行事、被災者による講話、震災遺構見学などがあり、各学校の実情に応じて、当地区のほとんどの学校で震災に関連させた何らかの授業や行事に取り組んでいることが分かった。また、昨年度調査結果との比較からは、震災から12年が経過し、教員として震災を経験していない世代の教員が増えている学校現場において、震災を風化させないための取組の重要性が共有されていることや、改めて震災を捉え直しての実践に各学校が取り組んでいることが伺える。

Ⅲ 具体的な取組・実践

震災で甚大な被害を受けた当地区では、震災直後から学校や地域の復旧・復興に取り組む活動の中で、被災経験をもとにし、道徳科や特別活動等と関連させた「命を大切に作る心」を育む教育実践が積み重ねられてきた。震災から12年が経過した現在では、沿岸部の学校において震災当時に始まった実践を継続・発展させ、道徳科の教材としても活用されたり、内陸部では震災の経験や教訓を学び、伝承していくための新たな取組が行われたりと、地域や学校の特色をより生かした、「命を大切に作る心」を育むための取組や実践に広がりが見られている。また、これらの活動は指導する教職員においても震災への理解を深める研修の機会になっている。

1 1000年後の命を守る活動

女川町は大震災当日、町内にいた約55.9%の命が失われ、家屋の80%以上が流失した。4月、A中学校に入学した生徒は、多くの人々に支えられて生きていることや登校できることに感謝し、自分たちができることを話し合った。再び来る巨大津波から全ての人の命を守る対策案を考え、命の尊さを認め合うことができる町づくりに向けて行動した。「1000年後の命を守る」を合言葉にし、町内全ての浜の津波到達点より高い場所に「女川いのちの石碑」を建立したり、命を守る術をまとめた『いのちの教科書』づくりを町議会や文部科学省、国際会議等で提案したりし、一つ一つを実現させた。命の大切さに

ついて考える活動は生徒会の専門委員会の活動などとして引き継がれており、これらの取組は、道徳科の教科書にも掲載されている。

現在は、震災の経験がない生徒たちが、新設された施設一体型小中一貫校の校地横にある石碑に込めた思いを継承している。A中学校では今後、命の大切さについて学んだことを中学3年生から1年生へ、そして中学生から小学生へ伝えていけるような教育活動を計画している。また、全国各地から訪れる教育関係者との交流等を通じて、生徒たちはもとより、教職員にも、中学生のよりよく生きようとする姿を伝えていきたいと考えている。



2 未来につなぐ「復興輪太鼓」

石巻市のB中学校は巨大津波によって校舎3階の屋上まで飲み込まれた。避難所生活が続く中、生徒たちを温かい布団で就寝させるため全校合宿が実施された。そこで生徒たちは、今、自分たちができることは何かを考え、B中の伝統である和太鼓の演奏を通して、自分たちが今、ここで生きていることへの感謝を伝えようと活動を始めた。流されてしまった太鼓の代わりに、車の古タイヤに透明のビニールテープを何重にも巻いて打面とした手作りの「輪太鼓」を避難所や東京駅、ベルリン等で演奏し、その姿は多くの人に勇気と希望を与えた。

B中では、現在、道徳の教科書に掲載された



先輩たちの活動を、全校道徳として毎年学び続けている。その授業を通して、今のB中生として、自分たちができることは何かを考え、よりよく生きようとする意思を育んでいる。

3 震災を未来に伝える防災研修会

登米市では、昨年度から夏休み期間を利用して、全ての中学校、各校2名の生徒と引率教員1名が参加し、県内の震災遺構等を訪問する研修会を実施している。

震災の記憶がある中学生が少なくなってきた中、震災に対する意識の風化が危惧されている中、甚大な被害があった南三陸町・石巻市に隣接する登米市として、震災の記憶を後世に伝えていく取組として設定された。安全・安心な生活について再確認するとともに、今後、命の大切さを啓発していく人材となっていくことを期待しての活動である。中学校の安全担当主幹教諭らが発案し、研修内容を計画したもので、登米市教育委員会が主催している。

研修内容には、震災の伝承館や震災遺構の見学、語り部による震災経験の拝聴などの活動を取り入れている。昨年度は「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」を、今年度は、「石巻市震災遺構門脇小学校」「みやぎ東日本大震災津波伝承館」等を訪問した。

参加した生徒たちの事後アンケートでは、生徒全員が「行って良かった」と回答している。感想からは、自分の命、友達や家族の命を大切に思う気持ちが読み取れる。また「なんとなく知ってはいたけど、今、初めて知ったと言える」「他校の人と関わりながら学ぶことができて良かった」と感じた生徒が多くいた。そして、ほとんどの生徒が、この体験を生かし、命の大切さを率先して伝え、行動に移していくことへの意識を高めることにつながったようである。

生徒たちは、この体験を各校の文化祭等の発



表の場で全校生徒に報告している。その際、生徒だけでなく保護者や地域の方々にも聞いていただくことで、大きな啓発の場となっている。

4 「命の大切さ」に関する系統的な学び

最大の被災地である石巻市でも津波の被害を受けていない内陸部にあるC中学校では、震災の記憶がほとんどない中学生に「命の大切さ」に関する系統的な学びを次のように実践している。

(1) 「命の大切さ」を未来へ引き継ぐ生徒

震災の記憶がほとんどない生徒たちは、震災遺構での体験学習の中で、講師が話した「経験しなくても伝えられることはある。みんなも伝える一人になって」の言葉をきっかけに「命の大切さ」を考える活動に意欲的に取り組んだり、「命の大切さ」を引き継ごうと活動するようになった。また、生徒たちは、年間を通じて実施された「命の大切さ」に係る授業や諸活動から自分たちが感じたり、考えたりしたことや、これから実践したいことなどを人に伝えたいと思うようにもなった。生徒たちは、これらのことを新聞にまとめ、石巻市の防災訓練等で地域の方への語り部として活動している。C中は阪神淡路大震災で被災した神戸の中学校と道徳科の授業交流を行っており、生徒は取り組んだことを神戸や全国の中学校へ伝えたいと考えている。

(2) 最大の被災地にある学校として

C中では、「命の大切さ」に気付き、積極的に活動しようとする子供たちの心に寄り添いながら、創造的復興教育を推進している。また、震災の経験がない世代の教職員にも語り継いでいくことを学校として重要視している。更に、今の子供たちにとって大震災は、第二次世界大戦などと同様に「過去の出来事」と認識されている実態を踏まえ、一人一人の

「命の大切さ」を学ぶ教育活動を道徳科をはじめ学校全体の年間指導計画にしっかりと位置付け、次世代の子供たちに「命の大切さ」を伝えている。これらの取組により、生徒一人一人の可能性を伸ばしながら、「命の大切さ」を未来に伝える、たくさんの教育活動が今後も学校・地域で生み出されていくのではないかと実感している。

IV 研究の成果と課題

1 成果

3年間の実態調査を通して、当地区の道徳教育に係る実施状況について把握することができた。また、道徳教育における校長としての意識や指導体制・指導の工夫などを共有できたことで、それぞれの地域や学校の特色をより生かした実践につなげることができた。更に、この12年間、東日本大震災からの復興の鍵は教育であるという認識の下、震災と関連させた道徳の授業や特別活動と関連させた教育活動の実践の積み重ねにより、未来を担う生徒の心の復興や地域の復興につながっていることを改めて認識することができた。

2 課題

震災から学んだ経験を基に、教員一人一人の道徳の授業に対する意識改革と更なる授業改善が必要である。そして、今目の前にいる子供たちに、「命を大切に作る心」をより育めるよう、引き続き教員研修会の充実を図るとともに、教育活動全体を精査しながら、道徳と特別活動の関連を図った教育活動を創意工夫していくことが重要であると考え。今後も校長会として明確な道標を示しながら、「よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実」を図っていききたい。

<研究部員>

阿部 一彦 (石巻市立 北上 中学校)
千葉 純子 (登米市立 登米 中学校)
後藤 正章 (石巻市立 湊 中学校)
猪股 徳幸 (石巻市立 河南東 中学校)
和泉千佳子 (石巻市立 桃生 中学校)
大川口裕義 (東松島市立鳴瀬未来中学校)
小野寺春樹 (登米市立 新田 中学校)
及川 敦 (登米市立 石越 中学校)
佐藤 順子 (登米市立 津山 中学校)



編 集 後 記

令和5年度の宮城県中学校長会「紀要」の作成にあたり、会員、関係各位の御指導と御協力をいただきながら無事作業が完了し、皆様のお手許にお届けできますことを感慨深く存じております。

昨年のゴールデンウィーク明けから新型コロナウイルス感染症が5類扱いとなり、本会の活動が通常の形に戻りつつある中で、今年度の情報部は「会報149号」の作成や本会ホームページの更新、そして「紀要」の作成を中心に活動を進めてまいりました。昨年の10月には、栗原市において「宮城県中学校長会研究協議会北部大会」が4年振りに参集型で開催される運びとなり、そのときの様子等も本冊子で垣間見ることができると思います。

関係の皆様には、御多用にもかかわらず、原稿執筆や研究のまとめ、更には「全日本中学校長会」の機関誌『中学校』への寄稿や貴重な写真の提供等にも御配慮いただき、誠にありがとうございます。皆様の御協力のおかげで、全ての業務を滞りなく全うすることができ、情報部員一同、衷心より感謝申し上げます。

今後も、創意工夫しながら、「会報」「紀要」「ホームページ」等を通して宮城県中学校長会に関わる情報を発信してまいりますので、会員の皆様の一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

【情報部員】

	地区	氏名	学校名
部長	北部	佐々木 晃	古川中
副部長	東部	阿部 勇志	渡波中
部員	大河原	松崎 恵子	村田二中
部員	仙台	白鳥 修	山元中
部員	本吉	藤山 篤	津谷中

令和5年度

宮城県中学校長会紀要

令和6年3月1日発行

発行 宮城県中学校長会
会長 佐藤 亨

編集 宮城県中学校長会 情報部

事務局 〒985-0851
多賀城市南宮字八幡170
多賀城市立第二中学校内
TEL (022) 309-1351
FAX (022) 309-1352
事務局員 佐々木奈美子

E-mail : miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

HP <http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/>

HPはこちらから→



印刷 有限会社 仙台大雅堂 〒980-0022 仙台市青葉区五橋2-4-15
TEL (022) 227-4445 FAX (022) 274-5363